平成 27 年度 筑波大学・鹿屋体育大学 大学体育スポーツ高度化共同専攻 外部評価委員会報告書

外部評価委員会 小林勝法(委員長) 佐々木 玲子 中村 友浩

目 次

- 1. はじめに
- 2. 外部評価委員会実施要項
- 3. 外部評価委員会出席者一覧
- 4. 大学体育スポーツ高度化共同専攻についての評価
- 5. 総評
- 6. 資料
 - 【資料1】大学体育スポーツ高度化共同専攻設置関係資料(抜粋)
 - 【資料2】設置の経緯とこれまでの活動 (スライド)
 - 【資料3】博士論文研究能力審査の概要 (スライド)
 - 【資料4】博士論文研究能力(QE)実施要項

1. はじめに

「大学体育スポーツ高度化共同専攻」は、平成24年度の国立大学改革推進事業に選定された「筑波大学と鹿屋体育大学の連携による体育・スポーツにおける共同専攻の設置」事業により、筑波大学と鹿屋体育大学によって専攻設置に向けた検討が開始され、平成28年4月に設置が認められた専攻である。

専攻設置に先立ち平成 27 年度には、筑波大学大学院人間総合科学研究科コーチング 学専攻内、および鹿屋体育大学大学院体育学研究科内に「高度大学体育スポーツ指導者 養成共同学位プログラム」が設置され、学生の受け入れが開始された。また、平成 27 年9月には、平成 28 年度大学体育スポーツ高度化共同専攻入学試験が行われ、平成 28 年4月より5名の学生が第1期生として入学することになっている。

本外部評価委員会は、大学体育スポーツ高度化共同専攻が開始されるにあたり、共同学位プログラムの進捗状況および平成28年度から設置される共同専攻の教育課程や教育活動が適切に設定され、行われているかどうかを評価し、当該専攻の改善を図ることを目的として、平成28年2月13日に筑波大学東京キャンパス文京校舎で開催した。

外部評価委員会委員の意見を記載した本報告書が、今後の共同専攻の発展に寄与できれば幸いである。

2. 外部評価委員会実施要項

日時: 平成28年2月13日(土)14:00~16:00

場所: 筑波大学東京キャンパス 320 講義室

議事次第:

(1) 開会挨拶 14:00~14:05

(2)委員紹介 14:05~14:15

(3) 共同専攻の活動の概要と今後の展望 14:15~15:00

(4) 外部評価委員による質疑 15:00~15:45

(5) 謝辞・閉会の辞

配付資料:

- (1) 出席者名簿
- (2) 大学体育スポーツ高度化共同専攻設置関係資料(抜粋) 資料1
- (3) 設置の経緯とこれまでの活動 (スライド) 資料 2
- (4) 博士論文研究能力審査の概要 (スライド) 資料3
- (5) 博士論文研究能力審査 (QE) 実施要項 資料 4

3. 外部評価委員会出席者一覧

【外部評価委員】

氏 名	所属・職名	備考
小林勝法	文教大学 教授	
佐々木玲子	慶應義塾大学 教授	
中村友浩	大阪工業大学 教授	

【大学関係者】(高度大学体育スポーツ指導者養成共同学位プログラム運営委員会委員)

氏 名	所属・職名		備考
木内敦詞		教授	
坂本昭裕		教授	
白木 仁		教授(体育センター長	
		補佐)	
高木英樹	筑波大学	教授(体育センター長	
同 小 天 個	巩 仮入子	補佐)	
中川昭		教授・体育系長	高度大学体育スポーツ指導者養成共同
- 1. /11 HD		秋汉 件目示文	学位プログラム運営委員会委員長
鍋倉賢治		教授	
長谷川悦示		准教授	
金久博昭		教授・副学長	高度大学体育スポーツ指導者養成共同
亚八日中			学位プログラム運営委員会副委員長
金高宏文		教授(スポーツ・武道	
亚미公人		実践科学系 副主任)	
髙橋仁大	鹿屋体育大学	准教授	
前田明		教授(スポーツ生命科	
ы H д1		学系 副主任)	
松尾彰文		教授(スポーツ・武道	
14 14 14 人		実践科学系 副主任)	
	嘉	教授(スポーツトレー	
山本正嘉		ニング教育研究セン	
		ター長)	

(敬称略 五十音順)

4.大学体育スポーツ高度化共同専攻についての評価

はじめに、木内委員より大学体育スポーツ高度化共同専攻の活動の概要と今後の展望として、設置の経緯、育成する人材像、既存専攻とのちがい(特徴)、教育課程、求める人材像、入学試験の概要、修了までの過程及び今後の課題等について資料に基づき説明され、続いて、金高委員より我が国において体育系の博士の学位に始めて適用する博士論文研究能力審査(QE)について、資料に基づき説明がなされた。その後、外部評価委員と意見交換が行われた。それらの意見及び回答は以下のとおりである。

- (1) 実際の指導の現場に重きを置くカリキュラムであることは理解できたが、入学する 学生は現職の教員だけではなく、修士から進学する学生も見込まれる。このような 現場を持たない学生にも対応したカリキュラムの内容であるか?
 - →「大学体育授業演習 I、II、III」の科目は筑波大学体育センター開講の一般体育の授業に参加し、教育実習という形で履修できる授業となっている。現場を持たない学生にも、一般体育の受講学生を実際に指導できる場面をカリキュラムに取り入れている。
- (2) 教員の仕事は授業を展開する能力だけではなく、大学や所属する機関の組織を運営する能力、マネジメントする能力、FDプログラムを企画運営できる能力などが必要である。これらを育成するプログラムの充実、それらをテーマにした研究の推進は十分であるか?
 - →実際に「大学教員準備講座」などを紹介し、大学の教育や FD について指導している。さらに、FD に関する講座に積極的に関わるよう指導するなど配慮していく。また、大学全体のマネジメントを学べるカリキュラムの準備、および FD やマネジメントに関する研究の充実を求めるとのご意見については、今後の課題として検討したい。
- (3) 修了後に就職した大学や教育機関には様々な違いがあり、指導対象の学生の学力レベルという点からもかなりの相違がみられる。カリキュラムは、これらの個々の大学に対応できる適応力を育成できるよう考慮した内容であるか?
 - →受講学生の能力差に対応するカリキュラムを用意しているので、特に現場を持たない学生に対しても充分に教育していく予定である。

- (4) (3)と同様にポリシー1つに関しても個々の大学によって様々である。体育のポリシーをこれら個々の大学に合わせて適応させる能力を育成できるよう考慮したカリキュラムの内容であるか?
 - →授業で所属する大学の教育理念とシラバス(体育の教育理念)の整合性を論議するなど、様々な状況に応じて対応できるよう具体的に指導している。
- (5) 特に私立大学ではスポーツ推薦 (アスリート学生に対する支援) があるが、これら への対応はできているか?
 - →「大学体育論」の講義で取扱っているため問題ないと考える。
- (6) 履修科目に「大学体育授業演習 I、Ⅱ、Ⅲ」、「体育スポーツ実践的研究演習 I、Ⅱ、Ⅲ」 というように同じ科目名で番号違いのものあるが、順序性は明確になっているか?
 - →「体育スポーツ実践的研究演習 I、II、III」は順序性があり、I から順番に履修しなければならないが、「大学体育授業演習 I、III、III」は履修の順序に規制がない。今後精査して順序性を明確にしたい。
- (7) グローバル化は大学における大きな課題である。体育も今後グローバル化に対応していく必要があると考えられる。これに対応するカリキュラムはあるのか? →選択必修という形ではあるが「国際インターンシップ」と「つくばサマーインスティトゥート」の2つの科目を準備している。これらの科目の履修により十分補えると考えているが、授業の履修のほかにも海外での学会発表やシンポジウムの参加など、自主的に参加するよう促していく予定である。
- (8) 修了生の就職先の見通しはあるのか?
 - →まだ修了生がいないため、就職後の修了生が評価されるように十分な教育を行う のみであり、今後の努力課題である。

5. 総評

(1) 大学体育の現状

専門体育の教員が研究を担当し、一般体育の教員は実技を担当していると見られることが多いが、専門体育の教員の中にも専門実技の教員が存在し、一般のコーチングを行い、研究としてはパフォーマンス研究のような場が設けられている。このように専門体育の教員は自分が研究していることがそのまま教育に生かせる状況であるが、一般体育の教員は自分の研究している専門領域と一般体育が合致しない、つまり教育と研究が分離されているので、一般体育を対象とした研究自体も少ない上に研究成果が教育に生かされていない状況である。一般体育の教員も一般体育を対象とした研究を促進すべきであるが、研究者のマーケットは専門領域の方が高いために、一般体育の研究は評価されないという現状である。したがって、私がこの専攻に期待するのは、運動生理学やスポーツ心理学や体育史のようなディシプリンと同様に、今までになかった大学体育スポーツ学というディシプリンを確立することである。そこには様々な研究テーマが多く内在し、今後開発する余地がたくさんある。

(2) 期待される能力

一般体育においては、いわゆるティーチング・スキルとカリキュラム・デザインと二つの教育力が必要である。ティーチング・スキルに関しては、教科教育の方の実績が多くあるので、それに従って育成していくことが可能であり、教員免許の取得ということで、ある程度の基準をクリアすることができる。

カリキュラム・デザインに関しては、大学のカリキュラムの作成過程で、所属大学のカリキュラム・ポリシーや、大学教育が今社会の中でどういう位置付けであるか、何が求められているのかというようなことも考慮して作成しなければならないので、そこがまさに大学体育の重要なところである。したがって、教科教育ではない大学体育学、大学スポーツ学の必要性があると思われる。

このように一般体育の体育組織の指導者となる人、さらには、自分の大学だけではなく他の大学も指導できる人材の育成のために、今後さらに、FDプログラムを企画運営する能力の育成と研究テーマとしてFDやマネジメントに関する研究の推進を希望する。

(3) おわりに

今回の委員会では、大学体育スポーツ高度化共同専攻が綿密な計画を基にして、作成されたカリキュラムであることを理解した。今後は、委員の意見を参考に検討し、このカリキュラムが確実に実行されて多くの優秀な修了生を輩出することを望む。また、国立大学改革強化推進事業としてこのプログラムが採択されたということは、体育としても、また大学体育としても、本当に有意義なことである。大学体育、大学スポーツの高度化を実現し、大学における体育の必要性を多くの大学に認識させ、体育・スポーツのますますの発展につながるよう大きな期待を寄せている。

外部評価委員会委員長 文教大学国際学部 小林勝法

設置の趣旨・必要性

ア. 設置の趣旨及び必要性

(1) 社会的背景・課題について

新成長戦略 (特に健康長寿社会の実現) とスポーツ立国戦略 (平成23年制定) の理念に従って豊かな知識基盤社会を今後実現していくためには、体育スポーツを通じて、今後の社会の担い 手である大学生 (※注1) の心身の健康と社会性を向上させ、活力ある人間へと成長させることが重要となる。そのためには、大学生の体育スポーツに携わる教員を養成する体育系大学院 (博士課程) の充実・改革が必要不可欠である。

体育スポーツ分野における現在の博士課程では、博士論文作成に柱を置いた従来の研究指 向型の人材養成システムが一般的である。このような人材養成システムは体育系大学・学部・ 学科における専門的な体育スポーツを担う教員養成には一定の成果をあげてきた。しかし、 一般の大学や高専等における体育スポーツ、すなわち教養・共通・基礎科目として開講される 体育授業(大学体育)や課外活動としてのスポーツ(大学スポーツ)を担う体育教員養成に は十分な成果をあげているとはいえない。大学体育や大学スポーツ(大学体育スポーツ)の 充実に必要となるのは、狭い領域の高度な知識や研究能力を備えた研究指向型人材の養成で はなく、現場の課題解決に活かせる高い実践的研究能力と教育指導能力を備えた高度専門人 材の養成である。たとえば、大学体育では、各大学における学生の特徴を様々な視点から調 査・分析し、その知見に基づいて当該大学の学生に適した体育授業を設計・実践・効果検証する ことによって、時代にも即したより良いものを追求していく。また、大学スポーツでは、技 術面はもちろん、倫理面や障害予防の指導についても、自身の経験則のみに頼るのではなく、 研究に裏づけられたエビデンスに基づく実践を追求していく。さらに、現場の課題解決のた めに他分野の研究者との共同・連携を円滑かつ効果的に進めていく。そのような人材が大学 体育教員に求められており、これは従来の体育スポーツ分野における修士や博士の枠に収ま らない、次世代型博士の提案といえる(図1、図2)。

そこで、大学体育スポーツの充実・高度化のために、教育指導と研究の循環を高度に展開できる能力育成を軸とした教育指向型の博士課程の創設が必要である。これを両大学の強み(図3)を活かして実現できれば、高等教育全体の質保証が求められる今日にあって、<u>体育スポーツ分野における教育の質保証へ直接的に貢献することになる。</u>

(※注1):ここでは、短期大学生・高等専門学校生を含む。

(2) 設置の趣旨・概要

筑波大学では、1973 年に全学的な教育センターとして設置された体育センターにおいて、 全学の教養体育を 40 年余り担ってきた実績があるだけでなく、大学体育スポーツに関する研 究プロジェクトを幅広く展開してきた実績があり、その成果を体育センターが発行する学術 誌『大学体育研究』(現在まで 36 号を発刊) へ蓄積してきた。

図1 大学体育スポーツ高度化共同専攻 設置の趣旨

Joint Doctoral Program in Advanced Physical Education and Sports for Higher Education

大学体育スポーツ現場の教育指導と研究の循環を効果的に行える 学術的職業人としての体育教員の養成・高度化

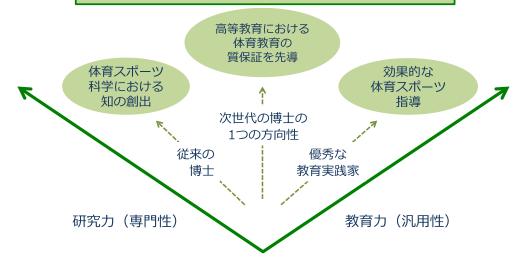


図 2



図3

両大学の強みを活かした共同専攻

体育スポーツ現場の教育と研究の循環を効果的に行える、 高等教育(大学体育教員)における学術的職業人としての体育教員の養成・高度化

筑波大学

本邦最大規模の教養体育を担う体育 センターを拠点に、大学体育スポー ツに関する幅広い研究プロジェクト を展開してきた実績

鹿屋体育大学

スポーツにおける実践知や身体知 の研究へいち早く取り組み、その 知見を蓄積してきた実績

鹿屋体育大学では、スポーツにおける実践知の研究にいち早く取り組み研究活動や啓蒙活動を活発に展開してきた実績があり、2009年には「スポーツパフォーマンス研究会」を発足させてスポーツにおける実践的研究の推進を図るとともに、ウエブジャーナル『スポーツパフォーマンス研究』をインターネット上で発刊(現在まで6巻を公開)し、スポーツにおける実践的研究の研究成果を蓄積してきた。さらに2015年9月には、スポーツパフォーマンス研究棟が完成し、技術面はもちろん、倫理面や障害予防などを含めた実践現場の研究としてエビデンスを追求していくスポーツの実践的研究を推進できる。

これら両大学の実績、すなわち筑波大学における大学体育スポーツに関する教育研究実績 と鹿屋体育大学における実践的研究に関する教育研究実績(図3)を活かす共同専攻を設置 し、大学体育スポーツの高度化を実現することができる人材の養成を行う。

(教育研究上の理念)

- 1) 大学体育スポーツ現場の教育指導と研究の循環を効果的に行える、学術的職業人としての体育教員の養成・高度化を目的とする。
- 2) 大学体育スポーツの教育指導に活かせる実践的研究能力の育成を図る。
- 3) 従来の博士論文作成重視の教育課程ではなく、コースワーク重視の教育課程を編成する。
- 4) 単独の大学ではなし得ない教育効果を達成するために、2つの大学の強みを活かした教育課程を編成する。

(3) 人材養成目的及び教育研究上の理念について

大学体育スポーツ現場の教育指導と研究の循環を効果的に行える、学術的職業人としての 体育教員を養成することを目的とする。

(4) 学生の入学定員について

入学定員:5名(筑波大学3名、鹿屋体育大学2名)

定員設定の根拠

高等教育機関における体育教員公募件数の過去9年間の変化をみると、2010(平成22)年度と2011(平成23)年度に一時的に減少したものの、毎年150件前後の公募件数が見込まれる(資料1)。また、筑波大学と鹿屋体育大学による合同調査によると、現職の大学体育教員で「准教授以下の職階にある45歳までの博士号の学位を持たない」者のうち約60%が、将来、体育系大学院博士課程への進学を希望しているとの結果を得ている(資料2)。したがって、本専攻は、今日における社会情勢と現職大学体育教員のニーズに合ったものといえる。このように社会的な必要性は大きいが、主な出願者として見込まれる現職教員への細やかな対応の必要性を想定し、筑波大学3名、鹿屋体育大学2名の定員規模に抑えることとした。

イ. 学生確保の見通し

(1) 学生確保の見通しについて

全国の国立大学、高等専門学校および私立大学(入学定員 1000 名以上の大学と体育系大学)に所属する現職体育教員、さらに、筑波大学の大学院生を対象としたアンケート調査の結果、現職者では「准教授以下、45 歳以下、博士号未取得者」の約 60%が、また大学院生は約 45%が体育系の博士課程への進学を希望していると回答した。また、その進学理由として、現職者の約 45%、大学院生の 35%が、教育力の向上をあげた。よって、十分な学生確保の見通しがある。

(2) 課程修了後の進路等について

大学・短期大学・高等専門学校の高等教育機関における体育教員(現職教員の再教育を含む)

ウ. 共同専攻の特色

本共同専攻の主な特色として、従来の博士論文作成重視の教育課程ではなく、コースワークを通した実践的教育能力および実践的研究能力の育成を重視した教育課程を編成している。また、2つの大学が定める必修・選択科目を履修することにより、単独の大学ではなし得ない教育効果を狙っている。さらに、博士論文執筆開始の条件として博士論文研究能力審査(QE)を実施して教育の質保証を行っている。

なお、既存の専攻と新設を計画している共同専攻との違いは、図2のとおりである。

エ. 共同専攻の名称及び学位の名称

(1) 専攻の名称・設置年度について

専攻の名称:大学体育スポーツ高度化共同専攻(3年制博士課程)

Joint Doctoral Program for Advanced Physical Education and Sports in Higher Education

理由:大学体育スポーツの充実・高度化を実現するために、現場の教育指導と研究の循環を効果的に行える、学術的職業人としての体育教員の養成・高度化を、筑波大学・鹿屋体育大学が共同で展開する教育システムである。

設置年度:2016 (平成28) 年度

(2) 学位の名称

学位の名称:博士(体育スポーツ学)

Doctor of Philosophy in Physical Education and Sport Studies

理由:既に両大学にある真理追求を柱とした研究指向型の専攻とは異なり、高等教育に おける体育やスポーツの充実に資する実践力や応用力を備えた教育・研究能力の 育成を意図した教育課程である。

※本共同専攻は、高等教育における体育スポーツ教育の質保証へ直接的に貢献することができうる教育指導能力育成を軸とした教育指向型の博士課程であり、さらに大学等における体育やスポーツの充実の基盤となる実践的研究力の育成に主眼を置いている。そのようなことから本共同専攻は、既に両大学にある真理追究を柱とした研究指向型の専攻とは異なり、高等教育における体育やスポーツの充実に資する実践力や応用力を備えた教育・研究能力の育成を意図した教育課程を編成している。そのため、本共同専攻の学位名称は、両大学の既存の「博士(体育科学)」や「博士(体育学)」と区別し(注1)、高等教育における体育とスポーツを包括的かつ実践的に取り扱うことから「博士(体育スポーツ学)」とする(注2)。また、教育を強調するために学位名に体育を明示することで、同じ実践系の博士(コーチング学)との区別を図る。なお、本共同専攻では、高等教育において体育とスポーツを密接に関連させながら包括的に扱うことを強調するために、体育・スポーツ学の「・」を取り、博士(体育スポーツ学)とする。

英語名称については、海外の状況を鑑み(注 3)、国際的通用性を備えた名称として、Doctor of Philosophy in Physical Education and Sport Studies とする。

○注1:既存の学位

· 鹿屋体育大学: 博士 (体育学) Doctor of Philosophy in Physical Education

• 筑波大学: 博士(体育科学)Doctor of Philosophy in Health and Sport Sciences

博士 (コーチング学) Doctor of Philosophy in Coaching Science

○注2:体育・スポーツ学

全国体育系大学学長・学部長会 教育の質保証委員会は、「体育・スポーツ学分野における教育の質保証 — 参照基準」(2011年10月)を作成し、その中で体育やスポーツの学問分野を最も包括的に捉える名称として「体育・スポーツ学」と定義している。

○注3:海外の状況

- ・Newman University(英国)において Doctor of Philosophy in Physical Education and Sports Studies が授与されている。また、Sport Studies が学位名称に入っているものとして、Doctor of Philosophy in Exercise Science and Sport Studies (Springfield College)、Doctor of Philosophy in Sport Studies (University of Tennessee-Knoxville) がある。
- ・International Council of Sport Science and Physical Education により、2014年にPhysical Education and Sport Studies をテーマに国際シンポジウムが開催されている。
- ・国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)における体育やスポーツ分野の取り扱いは、Physical Education and Sport としている。「International Charter of Physical Education and Sport」

オ. 教育課程の編成の考え方及び特色

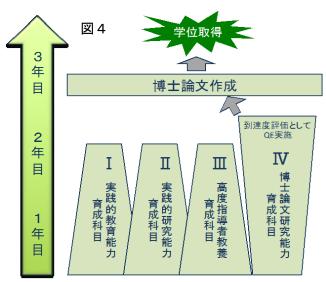
(1) 学位授与の方針

定められた要件(授業科目の履修単位および研究指導等)を充足したうえで博士論文を 提出し、学位審査に合格し、以下の能力を有することが最終試験等において認定された者 に博士(体育スポーツ学)の学位を授与する。

- 1) 大学体育スポーツを先導する確かな専門的知識と実技教育能力を身につけている。
- 2) 大学体育スポーツ現場の実践知を探求し、その研究成果を教育へと循環させること ができる実践的研究能力を身につけている。
- 3) 高等教育における体育スポーツ教育の質保証を先導する高度指導者に必要な教養を 身につけている。

(2) 教育課程編成の方針・内容について

教育目標を達成するために、従来の博士論文作成重視の教育課程ではなく、コースワーク 重視の教育課程を編成する。また、両大学の定める必修および選択科目を履修することによ り、単独の大学ではなし得ない教育効果を狙う。(図4)



〇従来の博士論文作成重視の教育課程ではなく、コースワーク重視の教育課程を編成する。また、両大学の定める必修および選択科目を履修することにより、単独の大学ではなしえない教育効果を狙う。

1) 4つの科目群「実践的教育能力育成科目」「実践的研究能力育成科目」「高度指導者教養育成科目」「博士論文研究能力育成科目」より構成する。前述「5 教育目標」に示す1)、2)、3)との対応は以下のとおり。

「実践的教育能力育成科目」: 1) 大学体育スポーツを先導する確かな専門的知識と教育指導能力を身につける

「実践的研究能力育成科目」: 2)大学体育スポーツ現場の実践知を探求し、その研究

成果を教育へと循環させることができる実践的研究能

力を身につける

「高度指導者教養育成科目」: 3)大学体育スポーツを先導する高度指導者に必要な教

養を身につける

「博士論文研究能力育成科目」: ※QE (=Qualifying Examination:博士論文研究

能力審査)合格者に「博士論文課題演習Ⅱ」の単位

を与える

- 2) 欧米の大学で広く実施されている QE を体育系の博士の学位に適用するのは本邦初で あることから、他大学への影響性を考慮し、QE の内容を慎重に議論した上で導入する。
- 3) 両大学は、地理的に離れていることから、遠隔講義システムを積極的に活用する。
- 4) 特に高等教育における高度な体育教員養成を効果的に行うために、本専攻では演習科目を重視して、自ら教育指導と研究の循環を促進できる能力を養成する。すなわち、実践的教育能力養成科目では、関連する研究知見を活かしながら自己の体育授業やスポ

ーツ指導の改善を自律的・継続的に行っていくための資質・能力育成を目的に、「大学体育授業演習 I ・ II ・ III 」「体育スポーツ実践的指導演習」を履修する。また、実践的研究能力育成科目では、大学体育や大学スポーツの現場における課題を解決するための研究を行い、それを論文化する資質・能力育成を目的に、「大学体育研究演習」「体育スポーツ実践的研究演習 I ・ II ・ III 」を履修する。

(両大学の特色を活かした教育課程)

- 1) 筑波大学:体育センターを中心に教養体育の教育研究実績があることから、高い水準の実践的教育能力育成科目を提供することができる。
- 2) 鹿屋体育大学:スポーツにおける実践知や身体知の研究の実績があることから、高い水準の実践的研究能力育成科目を提供することができる。

カ. 教員組織編成の考え方及び特色

(1) 基本的な考え方について

共同専攻の専任教員として、筑波大学では教授3人、鹿屋体育大学では教授3人の既に大学院の研究指導担当教員として認定を受けている教員が異動する。他に、筑波大学では教授3人・准教授1名、鹿屋体育大学では准教授1名のすでに大学院の授業担当教員として認定を受けている教員が異動する。

(2) 中心的な分野及び中核的な授業科目等への教員の配置・体制について

筑波大学では、コーチング論・大学体育論、トレーニング学、個人スポーツ・コーチング学、球技スポーツ・コーチング学といった大学院博士課程における既存の教育研究分野から教員を配置する。鹿屋体育大学では、スポーツ・武道実践科学系、スポーツ生命科学系から教員を配置する。(図 5)

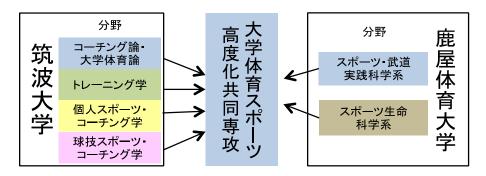


図5 既存の教育研究分野からの教員配置

(3) 運営委員会について

共同専攻の円滑な管理・運営のために、筑波大学人間総合科学研究科内および鹿屋体育大学体育学研究科内に「大学体育スポーツ高度化共同専攻運営委員会(仮称)」を設置する。

- 1) 共同専攻運営委員会は、共同専攻の入試、教育課程、学修、学生生活、広報等の問題について審議をする。
- 2) 共同専攻運営委員会は、委員長1名、副委員長1名、委員7名の計9名で構成する(筑 波大学5名、 鹿屋体育大学4名)。

キ. 開設授業科目区分および課程修了要件

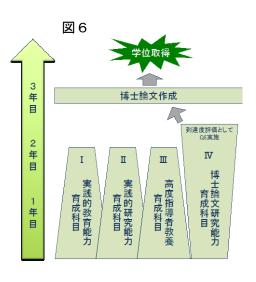
- (1) 開設授業科目区分(授業科目一覧は資料3)
 - 1) 実践的教育能力育成科目
 - 2) 実践的研究能力育成科目
 - 3) 高度指導者教養育成科目
 - 4) 博士論文研究能力育成科目 (博士論文研究能力の評価)
 - ◇到達度審査として Qualifying Examination (QE) を実施
 - ◇カリキュラム構想・シラバス作成など、授業力の評価
 - ◇リサーチプロポーザル作成など、研究力の評価
 - ◇高い研究倫理・教育倫理や国際通用性の評価

(2) 課程修了要件

実践的教育能力育成科目 3 単位(必修)、実践的研究能力育成科目 3 単位(必修)、高度指導者教養育成科目 1 単位(必修)、博士論文研究能力育成科目 4 単位(必修)を含め、修了のための必要条件 14 単位以上を修得のうえ、博士論文を提出し、学位審査に合格した者。

(3)課程修了までのプロセス、履修モデルについて 【課程修了までのプロセス】

学生の希望に応じた科目選択により、主に 1・2 年次において実践的教育能力、実践的研究能力、高度 指導者教養とともに、博士論文研究能力を獲得する。 そして、2年次後期に、博士論文研究能力の到達度審 査として実施される QE に合格した者が博士論文の執 筆に着手する。3年目に博士論文を作成し、審査に合 格した者は博士の学位を取得する。(図6)



【履修モデル】

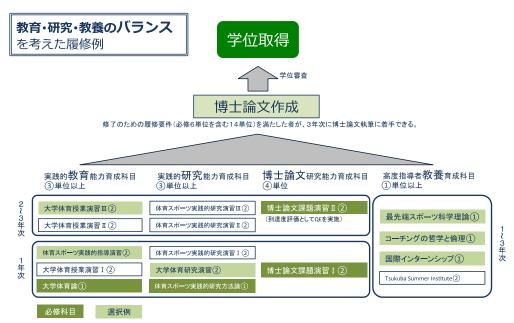
就職先・職種等をイメージして、出口から履修モデル(修得能力に対応する授業科目や研究指導等を整理)3例を以下に示す(例示1、2、3)。本専攻は高等教育における体育教員の人材育成に特化した教育課程であることから、各学生の希望に応じた履修モデルに対応できるよう構成されている。すなわち、以下のように、教育・研究・教養のバランスを考えた履修、実践的教育能力の向上に重きを置いた履修、実践的研究能力の向上に重きを置いた履修のモデルである。

(4) 研究活動等を単位として認定する授業科目について 博士論文研究能力育成科目の「博士論文課題演習Ⅰ」「博士論文課題演習Ⅱ」が該当する。

(5) 学生指導・研究指導等について

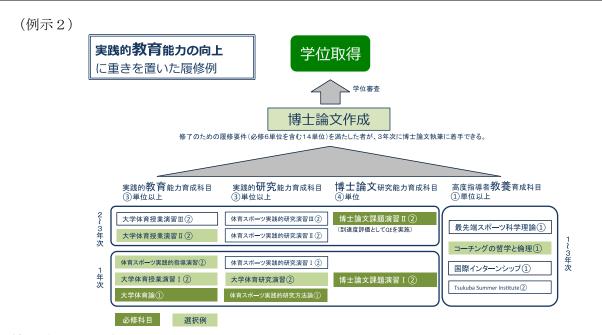
主指導教員1名および副指導教員2名は、共同専攻担当教員から決定する。ただし、主指導教員は学生と同じ大学に所属する教員が、そして副指導教員には両大学から1名ずつの教員がそれぞれ担当する。

(例示1)



博士論文の課題例

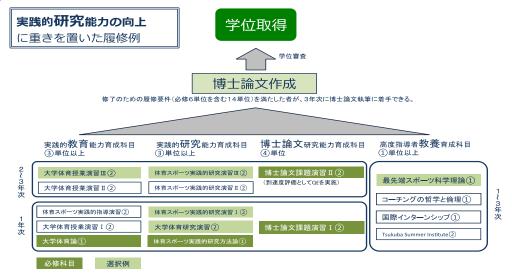
- ・大学生の体型と体力に関する縦断的研究
- ・大学体育実技の授業内容と卒業生の満足度との関連性に関する研究
- ・新設看護大学における体育実技および理論の拡充に関する研究



博士論文の課題例

- ・共通体育ハンドボール授業での投能力の向上に関する研究
- ・ダンス学習における CPM シートを利用した動きの創造に関する研究
- ・共通体育「野外運動」におけるイニシアティブゲーム体験が大学生のメンタルヘルス に及ぼす影響に関する研究

(例示3)



博士論文の課題例

- ・テニスの競技能力向上に及ぼす要因に関する研究
- ・ヨット競技における第一マーク帆走時までの戦略・戦術に関する研究
- ・東京箱根間往復大学駅伝競走までの 11 週間にわたる心理状態の経時的変化と競技成績 との関係性に関する研究

(6) 学位審査体制について

「11 学生指導・研究指導等」記載の指導体制の下、両大学における担当教員が互いに協力分担して学位審査を行う。なお、学位審査を行う教員は、他の大学の併任又は学位規則 (昭和 28 年文部省令第 9 号) 第 5 条の協力者として、参画するものとする。

※昼夜開講制等の対応(14条対応)

開設授業の時間帯については考慮しないが、現職教員等への研究指導については適宜夜間 に行うなど対応する。

ク. 施設、設備の設置計画等

筑波大学開講科目については筑波大学の施設を、鹿屋体育大学開講科目については鹿屋体育大学の施設をそれぞれ使用する。実技演習科目は除き、講義および演習科目では遠隔講義システムを用いて、両大学の学生が授業を受けられるようにする。また、研究指導を中心に、鹿屋体育大学のサテライトが設置されている筑波大学東京キャンパスの施設を活用する。

ケ. 入学者選抜(アドミッションポリシー)の概要

- (1) 求める人材像について
 - ① 大学体育や大学スポーツの教育指導現場における問題解決のための実践的教育・研究 能力獲得に高い意欲を持つ者。
 - ② 修士課程(専攻領域問わず)を経るなど一定水準の学術的研究能力を身につけた者。

(2) 入学者選抜方法について

入学者の選抜は次のとおり行う。

- 1) 調査書
 - 履歴書(学歴、競技歴、指導歴、職歴): 大まかな経歴を把握
 - ・体育授業担当およびスポーツ指導に関する調書: 教員・指導者としての資質を評価 ※これまでの経験を踏まえた、体育授業およびスポーツ指導に関する抱負、本専攻入学の志望動機、

将来の展望

- ・研究計画書(研究題目・背景・目的・方法・期待される成果): 本専攻との適合性を評価
- ・主要論文: 研究能力全般を評価。卒論、修論含む。
- 2) 口述試験(面接)
 - ・志望動機、在学中の活動計画の概略、修了後の進路について試問し、志望目的・意欲、 将来構想の確立の程度を評価する
 - ・出願時提出の研究計画書に基づき、研究課題、研究計画などを発表させ、それに対して 質疑を行う。博士論文作成の達成見込みを評価するとともに、大学体育、大学スポーツお よび大学教育に関する総合的な知識を評価する。

- ・上記の質疑応答を通じて、応答能力・論理的思考力なども総合的に評価する。
- 3) 英語: TOEIC スコアにより評価する。

なお、社会人や外国人留学生の特別選抜等は行わない。ただし、本専攻では、主に現職の大学体育教員の入学が見込まれるため、授業日を木曜・金曜にまとめて設定している。また、必修科目については、月に一度、土曜日を利用した集中授業を遠隔授業システムにより筑波大学と鹿屋体育大学で実施する。

(3) 合否判定の基準等について

大学体育スポーツを牽引する高度指導者となり得る者を総合的に判定して選抜する。

以上

大学体育スポーツ高度化共同専攻 設置の経緯とこれまでの活動

大学体育スポーツ高度化共同専攻 外部評価委員会 @ 筑波大学東京キャンパス文京校舎 2016.2.13



名称 not 体育・プスポーツ

高度**大学体育スポーツ**指導者養成 共同学位プログラム

大学体育スポーツ高度化

共同専攻(2016年度~)

Joint Doctoral Program in Advanced Physical Education and Sports for Higher Education

大学における体育とスポーツ を包括的かつ実践的に捉える

博士(体育スポーツ学)

Doctor of Philosophy in Physical Education and Sport Studies

発端

国立大学改革強化推進事業

国際的な知の競争が激化する中で、大学の枠を超えた連携の推進

や個性・特色の明確化などを通じた国立大学の改革強化推進。

2012 (H.24年度) 14件選定



筑波大 & 鹿屋体大

+ JSC **修士「スポーツ国際開発」** に関するもの

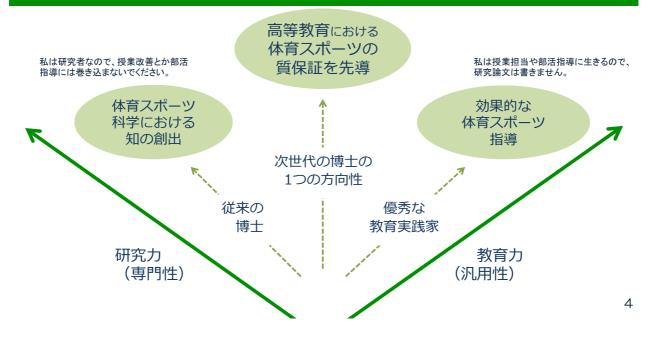
博士「大学体育スポーツ指導者養成」

3

課題

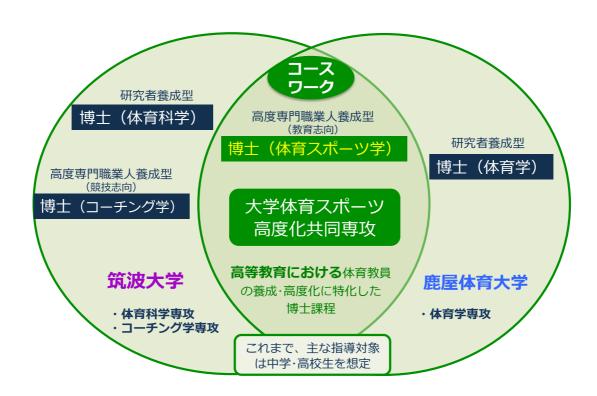
→育成する人材像

大学体育スポーツ現場の教育指導と研究の循環を効果的に行える 学術的職業人としての体育教員の養成・高度化



特徴

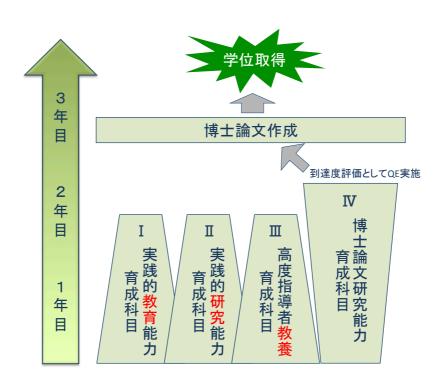
既存専攻との違い



5

課程

4つの科目群



6

課程

修了までの過程

博士論文の作成・審査へ



Ⅳ 博士論文研究能力育成科目

●博士論文課題演習 I (2) ●博士論文課題演習 II (2) 4単位 到達度審査としてQualifying Examination (QE) を実施 カリキュラム構想・シラバス作成など、授業力の評価 リサーチプロボーザル作成など、研究力の評価 高い研究倫理・教育倫理や国際通用性の評価

〈カリキュラムポリシー〉

I 実践的教育能力育成科目

- ●大学体育論(1)

 ・大学体育授業演習 I(2)

 ・大学体育授業演習 I(2)

 ・大学体育授業演習 I(2)

 ・大学体育授業演習 I(2)

 ・大学体育技業演習 I(2)

 ・体育スポーツ実践的指導演習(2)
- 〈教育目標〉

大学体育や大学スポーツを先導する確かな

教育指導能力の養成

(カリキュラム等開発および授業力の養成)

●必修 筑波開講 鹿屋開講

Ⅱ実践的研究能力育成科目

・大学体育研究演習(2) ●体育スポーツ実践的研究方法論(1) ・体育スポーツ実践的研究演習 I(2) ・体育スポーツ実践的研究演習 I(2) ・体育スポーツ実践的研究演習 I(2) ・体育スポーツ実践的研究演習 I(2)

体育・スポーツ現場の実践知を探求し、その 研究成果を教育へと循環させることができる

実践的研究能力の養成

(仮説創出型および仮説検証型研究力の養成)

Ⅲ 高度指導者教養育成科目

Tsukuba Summer Institute (2)
 ・国際インターンシップ (1)
 ・コーチングの哲学と倫理 (1)
 ・最先端スポーツ科学理論 (1)

大学体育や大学スポーツを先導する

高度指導者に必要な教養の養成

(高い倫理観および国際感覚の養成)

〈ディプロマポリシー〉

- 1. 高等教育における体育スポーツを先導する確かな専門的知識と教育指導能力を身につけている。
- 2. 体育スポーツ現場の実践知を探求し、その研究成果を教育へと循環させることができる実践的研究能力を身につけている。
- 3. 高等教育における体育スポーツ教育の質保証を先導する高度指導者に必要な教養を身につけている。

7

履修モデル

教育・研究・教養のバランス

学位取得



博士論文作成

修了のための履修要件(必修6単位を含む14単位)を満たした者が、3年次に博士論文執筆に着手できる。

実践的教育能力育成科目 博士論文研究能力育成科目 高度指導者教養育成科目 実践的研究能力育成科目 ①単位以上 ③単位以上 ③単位以上 大学体育授業演習Ⅲ② 体育スポーツ実践的研究演習 III ② 博士論文課題演習Ⅱ② 最先端スポーツ科学理論① 3年 (到達度評価としてOFを実施) 大学体育授業演習Ⅱ② 体育スポーツ実践的研究演習 Ⅱ ② コーチングの哲学と倫理① 体育スポーツ実践的研究演習 I ② 体育スポーツ実践的指導演習② 国際インターンシップ(1) 大学体育授業演習 I ② 大学体育研究演習(2) 博士論文課題演習 [② Tsukuba Summer Institute (2)

必修科目選択例博士論文の課題例

- ・大学体育実技の授業内容と卒業生の満足度との関連性に関する研究
- ・大学生の体型と体力に関する縦断的研究
- ・新設看護大学における体育実技および理論の拡充に関する研究

(3年次



実践的教育能力の向上

学位取得



博士論文作成

修了のための履修要件(必修6単位を含む14単位)を満たした者が、3年次に博士論文執筆に着手できる。



博士論文の課題例

- ・共通体育ハンドボール授業での投能力の向上に関する研究
- ・ダンス学習におけるCPMシートを利用した動きの創造に関する研究
- ・共通体育「野外運動」におけるイニシアティブゲーム体験が大学生のメンタル ヘルスに及ぼす影響に関する研究

履修

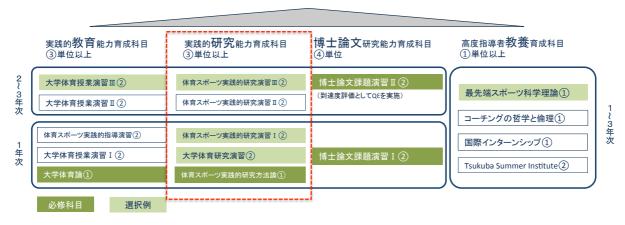
践的<mark>研究</mark>能力の向上

学位取得



博士論文作成

修了のための履修要件(必修6単位を含む14単位)を満たした者が、3年次に博士論文執筆に着手できる。



博士論文の課題例

- ・テニスの競技能力向上に及ぼす要因に関する研究
- ・ヨット競技における第一マーク帆走時までの戦略・戦術に関する研究
- ・東京箱根駅伝往復大学駅伝競走までの11週間にわたる心理状態の経時的変化と 10 競技成績との関係性に関する研究



アドミッション・ポリシー

- ◆ 大学体育や大学スポーツの教育指導現場に おける問題解決のための 実践的教育能力・ 研究能力の獲得に 高い意欲を持つ者。
- ◆ 修士課程(専攻領域問わず)を経るなど、 一定水準の学術的研究能力を身につけた者



現職の大学体育教員 修士課程2年次生

11

H28 入試

2016 (平成28) 年度 入試

◆出願期間 2015年8月24(月)~28日(金) → 受験票発送9月4日(金)

◆入 試 日 2015年9月27日(日) → 合格発表 10月8日(木)

◆入試会場 筑波大学東京キャンパス文京校舎(ココ)

◆入試区分 一般入試のみ

◆選抜方法 調査書、口述試験、英語 (TOEICまたはTOEFLスコアによる評価)(配点) 150点 100点 50点

◆出願書類 ・履歴書(学歴、競技歴、職歴、指導歴)

・体育授業およびスポーツ指導に関する抱負

・研究計画書(1,200字程度)

・主要論文等の写し(5点まで)

・TOEIC公式認定証 または TOEFLの受験者用控えスコア原本 大まかな経歴 教員・指導者としての資質 専攻との適合性 研究素養

英語力

12

合格者の入学前プロフィール紹介

2015入学者(本専攻に先行した学位プログラム)

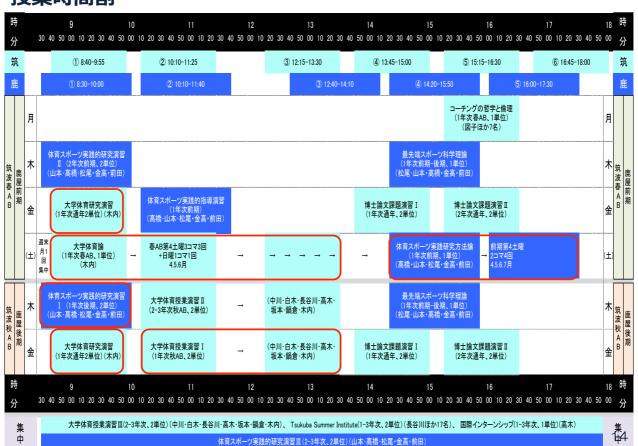
- **現** 私立大学·教授、48歳、体育学修士(筑波大)、男性
- · 鹿屋体育大学大学院修士課程2年次、24歳、男性

2016入学予定者

- **現** 筑波大学体育系·助教、修士(体育学、筑波大)、31歳、男性
- · 筑波大学大学院修士課程2年次、24歳、男性
- 筑波大学大学院修士課程2年次、24歳、男性
- **現** 鹿屋体育大学·助教、修士(体育学、鹿屋体育大)、30歳代、女性
- ・ 鹿屋体育大学・非常勤講師、修士(体育学、筑波大)、30歳代、女性

13

授業時間割



大学体育論

大学体育教員に求められる職能理解

授業計画 1 本学位プログラム設置の趣旨

- 2 大学体育の理念、現状、課題
- 3 授業シラバスの分析
- 4 大学スポーツの現状と課題
- 5 スポーツを通じたライフスキル教育
- 6 単元構造図
- 7 インストラクショナル・デザイン
- 8 授業の目的一内容一評価の対応
- 9 大学の教育理念と体育授業の整合性
- 10 体育授業を再設計する



成績評価の基準 授業設計のレポートおよび授業中の討論への積極性から総合的に評価する。

1. 大学教員準備講座、夏目達也ほか、玉川大学出版部、2010 テキスト

- 2. 未来を拓く大学体育:授業研究の理論と方法、橋本公雄ほか、福村出版、2012 3. 実習で学ぶ健康・運動・スポーツの科学、九州大学健康科学センター、2008

第1章

1. 大学教育改革と保健体育の未来像、日本体育学会体育原理専門分科会編、不昧堂出版、1991 参考書

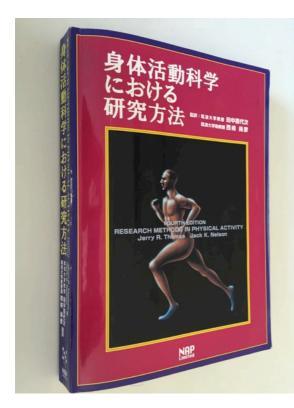
- 2. 大学の教務Q&A、中井俊樹ほか、玉川大学出版部、2012 3. 大学のIR Q&A、中井俊樹ほか、玉川大学出版部、2013

15

大学体育研究演習

体育スポーツの多面的価値観と研究方法を学ぶ

身体活動研究の序章



第2章 課題の展開と文献の利用 第3章 研究課題の提起 第4章 研究方法 第5章 研究と学問における倫理的問題 第6章 統計概念を理解する 第7章 変数間の関係 第8章 グループの差 第9章 ノンパラメトリック法 第10章 変数を評価する 第11章 身体活動の歴史研究 第12章 身体活動における哲学的研究 第13章 メタ分析 (研究統合) 第14章 調查研究 第15章 他の記述的研究の方法 第16章 身体活動における記述的調査法 疫学

実験的研究と疑似実験的研究

質的研究

研究経過の完結

研究報告の方法

研究報告

の型

第17章 第18章

第19章

第20章

体育スポーツ実践的研究方法論(必修)

授業概要

スポーツの実践現場へ貢献するための実践的研究の方法論について概説する。特に大学体育および大学スポーツを対象に、実践現場で起こる様々な事象について、直接的に寄与する知見(実践の知)を得るための研究方法論について学ぶ。

授業計画

- 1 実践的研究の意義
- 2 大学体育・スポーツにおける実践を意識した研究のあり方
- 3 体育・スポーツ実践における経験知(実践知)を記述・分析する方法論
- 4 実践知を客観的に記述・検証する方法論1 動きを記述・検証する
- 5 実践知を客観的に記述・検証する方法論2 ゲーム・戦術を記述・検証する
- 6 実践知を客観的に記述・検証する方法論3 コンディショニングを記述・検証する
- 7 実践知を客観的に記述・検証する方法論4 コーチングおよびチームマネジメントを記述・検証する
- 8 実践的研究を進めるための研究計画と研究倫理

成績評価の基 各回の授業レポート、ディスカッションへの参加度、最終 準 レポートから総合的に評価

大学体育・スポーツ指導者のための実践的研究方法論概説 テキスト (鹿屋体育大学、作成中)

実践的研究能力の 可視化・評価

研究倫理の涵養度

[仮設創出型] ・事例記述力

- ·説明·解釈力
 ·予測·提案力
 - 案力 実
- [仮設検証型] ·情報収集力
- •情報分析力
 - •実験等構想力
 - •実験等実施力
 - •統計•分析力
 - •仮設検証力

第3期において、A 選手はターン動作における状態の姿勢を重慮に近い状態で維持する ため、左線を接廊に対して平行にスイングするように意識していた(図 3-①~②下)、そ して、第2期に収むて、比較的早い段階で身体が投擲方向へと進む様子が確認された (図 3-②)、また、A 選手はターン動作において身体が加速するようになったと感じてい た・・・・・



図3 A選手における投擲動作;第2期と第3期

17

大学体育授業演習 I

体育授業の観察・記録・分析を通じた省察力向上



体育授業の観察・記録・分析を通じた省察力向上

基礎的な教授行動評価基準20項目

番号	評価観点	評価 の 段階	評 価 規 準	評価方法	
		3	適切な対応により、不必要な待機場面がない。あるいは最低限の待機場面にとどめている。		
10	待機	2	不必要な待機場面が少ない。	それぞれのM場面で確認する。	
		1	準備が不足し、不必要な待機場面が多い。		
	佐乳・田日の	3	学習の効率や、活動に有効な施設や用具の配置を考えた準備や片付けがされている。		
12	施設・用具の	2	特に問題なく施設・用具の準備や片付けがされている。	それぞれのM場面で確認する。	
	準備,片付け	1	施設・用具の準備、片付けが不十分である。		
	===	3	話し合いの場面、内容が計画的に設けられている。教師が計画的に関わっている。	- A場面が設定されている場合の	
(3)	話し合い	2	話し合いの場面が設けられている。	それぞれのA場面で確認する。	
	[+]	1	話し合いの場面がない。あるいは話し合いの内容が不明瞭である。	(設定されていない場合は評価しない)	
	Marini - New Per	3	学習活動に効果的な資料が用意さている。十分に活用している。	A 場面が設定されている場合の それぞれのA2場面で確認する。	
(1)	資料の活用	2	資料は用意され、活用している。		
	[+]	1	用意されていない。あるいは活用されていない。	(設定されていない場合は評価しない)	
		3	安全管理が十分に考えられている。状況に応じた活動内容の修正をしている。	それぞれのA2場面で確認する。	
(5)	19 安全管理	2	安全に配慮している。		
		1	危険を放置している。安全への配慮に欠けている。		
		3	全体を把握できる巡視、観察ができている。		
16	モニタリング		巡視が行われている。	それぞれのA場面及びA2場面で 確認する。	
	(観察、巡視)	1	一力所にとどまりすぎ、全体を見ることができていない。	1880 7 °0's	
		3	学習の目標にあった多様な発問をしている。発問が具体的でわかりやすい。		
0	発問の活用	2	活動の目的にあった発問をしている。	── 行われたそれぞれのI場面及び ── A、A2場面で確認する。	
	[+]	1	発問が不明確である。	The same of the sa	
			肯定的なフィードバックの価値を理解し、相手に伝わるよう、積極的なフィードバックが行われている。		
18	肯定的な相互	2	ある程度のフィードバックは行っている。	それぞれのA場面、A2場面及び 見られたI場面で確認する。	
	作用の活用		まったく行っていない。あるいは、積極的に行えていない。	JC-540721-BIBL CIRBO 9 60	
	1+4K33K8.0		参加者の技能に応じた、正しい知識による具体的手がかりを伝えている。次の活 動につながる手がかりを伝えている。		
(19)	技能習得の手がかり	2	手がかりを具体的に伝えている。	──それぞれのA場面、A2場面及び ──見られたI場面で確認する。	
	ナかかり		手がかりが出せない。あるいは、適切でない助言を与えている。	JC 3407 Linguist Charles 9 00	
	()	3	すべての参加者に学習課題や手順が理解されており、活発な学習活動が見られる。また、不適切な場合は適切に修正している。	それぞれのA場面及びA2場面で 確認する。 19	
20	参加者の行動	2	おおむねの参加者に学習課題や手順が理解され、想定した活動が見られる。		
	に対する対応	1	学習課題や手順が十分に理解されず、参加者の行動が一定していない。	19	

体育スポーツ実践的研究演習 I 体育スポーツの実践的研究論文の作成



スポーツパフォーマンス研究は, スポーツにおける実践活動に直接寄与する知見を,インターネットによる ウエブ上で提供するジャーナルである.

主要履歴 2015.07.29 第1回JSP学会大会 2015.05.25 編集委員交代 2015.05.01 編集委員長交代 スポーツパフォーマンス研究, 1, 202-210, 2009

野球のパッティングパフォーマンスを高めるためのスイング動作習得法

中島一1), 図子浩二2) 1)鹿屋体育大学大学院 2) 鹿屋体育大学

キーワード: 野球, バッティング, 動作習得法, 地面反力, モーメントアーム

最近掲載の論文要旨

1539 剣道の打突動作における竹刀保持方法および手の内に関する落とし穴:ある中学男子剣道競技者の誤習得・改善 近藤亮介(神戸大学), 金高宏文(鹿屋体育大学)

剣道競技における冴スのある打撃に随連する「手の内」の問題は、打突指導において必ず当面する問題であると いわれている。筆者は中学1年生時に誤った打突動作における手の内を習得(誤習得)したことを契欄に、打突 技能を低下させた。 本研究では、筆者が中学生期に経験した動作改善過程の事例分析より得られた実践知につ いて報告する. 重要と考えられた主な実践知は、以下の3つであった。

- 1. 使用する竹刀の規格変更を行った際には、竹刀の長さや重さの増加に起因して打突動作時の動作感覚に違和感
- 1. 使用する可力の原格変更を行う活体には、アガルの点とや単セの場所に認むして弁実動作率の少断作機がに強われ が生じていないが、特に右手・右腕の力みがないかを点換する必要がある。 2. 打突動作物に右手・右腕に力みを生じている者が呼びのある打突動作へと改善するためには、右手を左手側に 力すかにすっき手の内によって打突動作を行ったが有効と考えられる。 3. 右手・右腕が過度に力んだ打突動作を身につけてしまった豚の改善法として、まずは極端に右手を左手側に近 づけた状態で大きな業態り(伝達型業振り)を行い、剣尖への力の伝達感を確認・補強することが有効と考え られる。

Pitfalls of how the bamboo sword is held when striking in kendo: Improper learning and the process of improvement of a junior high school kendoka. The method of holding the sword when sharp striking in kendo is said to be always a question when coaching striking. When the first author was in the seventh grade, he experienced a reduction in the effectiveness of his striking technique because he had learned the striking action improperly. The present report summarizes what the first author learned from an analysis of the process of improving his striking that he experienced at that time. What is thought to have been most important is the following:



20

今後の課題、展望

・広報活動の活性化

体育学会でのパンフレット配布など

・在学1年次生の3年間での学位取得

特に現職教員学生の研究進捗管理の徹底

21

ありがとうございました。



大学体育スポーツ高度化共同専攻(3年制博士課程)外部評価(2016.2.13)

博士論文研究能力審査の概要 (QE: Qualifying Examination)

2

大学体育スポーツ高度化共同専攻の概要

D

- 1. 大学体育や大学スポーツを先導する確かな専門的知識と実技教育能力を身につけている.
- 2. 体育・スポーツ現場の実践智を探究し、その研究成果を教育実践へと循環させることができる 実践的研究能力を身につけている.
- 3. スポーツ・武道文化の進展及び国民の健康の増進に積極的に寄与する態度を身につけている.

教 育 目

大学体育や大学スポーツを先導する 確かな

実践的教育能力の養成

(カリキュラム等開発び授業力の養成)

スポーツ・武道文化の進展及び国民の 健康の増進に積極的に寄与できる

大学体育スポーツ教養の養成

(高い倫理観及び国際感覚の養成を含む)

実践智を探究し、その研究成果を教育 実践へと循環させることができる

実践的研究能力の養成 (仮説創出型及び仮説検証型研究能力の養成)

C Р 実践的教育能力育成科目 $(3単位+\alpha)$

- ·大学体育論(1)
- ·大学体育授業演習 I(1)
- ・大学体育授業演習Ⅱ(1)
- ・大学体育授業演習Ⅲ(1)
- ・大学スポーツ実践的指導演習(2)

高度指導者 教養育成科目 $(1単位+\alpha)$

- ・つくばサマーインスティトゥート
- ・国際インターンシップ(2)
- ・コーチングの哲学と倫理(1)
- ・最先端スポーツ科学理論(1) ※ 既存の大学院開設科目等

実践的研究能力育成科目 $(3単位+\alpha)$

- ·大学体育研究演習(2)
- ・体育スポーツ実践的研究方法論[1]
- ・体育スポーツ実践的研究演習 I(2)
- ・体育スポーツ実践的研究演習 Ⅱ(2) 体育スポーツ実践的研究演習皿(2)

1年次:博士論文課題演習 I (2)

実践的教育能力の評価 [教育能力・大学体育スポーツに関する口述試験]

実践的研究能力の評価 [博士論文研究計画書・実践的研究論文の審査 博士論文研究計画書プレゼンテーション、口述試験]

2年次:博士論文課題演習Ⅱ(2)

|博士論文作成の可否を審査(条件:実践的研究論文への投稿1編+必修4単位を含む8単位修得

各能力を評価するルーブリック を作成し、評価する

学位論文の作成・審査へ

2014.4.6作成 2016.2.11修正

1

年

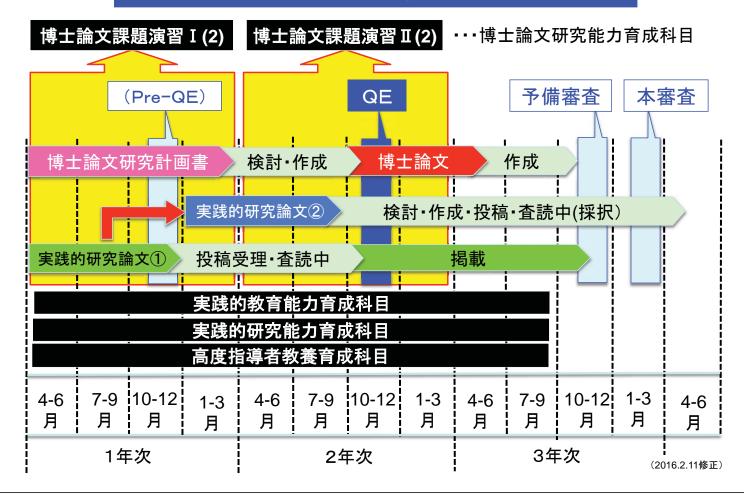
2

年

2

年

論文作成等とQE·学位審査等の流れ(案)



大学体育スポーツ高度化共同専攻におけるQEの概要

博士論文研究能力審査[QE](120分)

実践的教育能力の可視化と評価

【教育·指導倫理】

【教育(実技指導)能力】

- ・授業・指導の構想・計画力
- ・授業・指導の展開・改善力

【マネジメント能力】

- 組織マネジメント力
- ・施設マネジメントカ等

【大学体育スポーツに関する教養】

- ・大学体育スポーツの意義・歴史・効果 等
- ・最先端のスポーツ科学情報 等

実践的教育能力の審査(60分)

- ・授業・指導に関わる資料(別途指定)の事前審査
- ・授業・指導場面のビデオを用いた教授行動評価基準による事前評価
- ①教育能力に関する口述試験(40分)
- ②大学体育スポーツに関する口述試験(20分)

実践的研究能力の可視化・評価

【研究倫理】

【仮説創出型研究力】

- ・事例記述力
- ·説明·解釈力
- •予測•提案力

基礎的•一般的 研究能力

【仮説検証型研究力】

- •情報収集力
- •情報分析力
- •実験等構想力
- •実験等実施力
- •統計•分析力
- •仮説検証力

実践的研究能力の審査(60分)

- 実践的研究論文の事前審査
- 博士論文研究計画書の事前審査
- ①博士論文研究計画書プレゼン(20分)

と質疑応答(20分)

②実践的研究能力の口述試験(20分)

(2016.2.11作成)

実践的研究能力の評価視点

【仮説創出型研究能力】

- ・事例記述力(問題の形成、事例の背景・過程・結末の記述)
- ·説明·解釈力

(事例の実践的・社会的・学術的な意味内容や構造の分析・考察)

•予測•提案力

(新たな仮説(教訓)・一般論及び実践への提案、研究の限界の説明)

【仮説検証型研究能力】

- •情報収集力(先行研究・知見の収集と整理)
- •情報分析力(先行研究・知見の分析と問題設定)
- •実験等構想力(仮説の設定, 研究法の選択)
- ・実験等実施力(被験者・実験等の準備・実施)
- •統計•分析力(分析,統計処理,資料作成等)
- 仮説検証力(データ的・文献的な意味の検討)

【研究倫理】

「科学の健全な発展のために一誠実な科学者の心得一」(学振, 2015)

【基礎的·一般的研究能力】 Vitae RDF

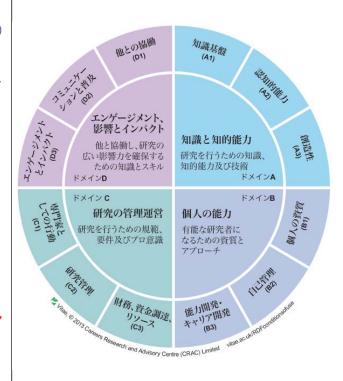
5

基礎的・一般的研究能力の評価視点

【研究能力の自己診断システムの活用】

- ・Vitae RDF (Researcher Development Framework) 世界トップクラスの研究者の育成を目指し、研究者の総合的な能力開発を目的にVitaeが開発したフレームワーク。4つのドメインに分けられており、それぞれのドメインの内容はさらに細分化される。
- ●ドメインA:知識と知的能力・・・知識基盤/認知的能力/創造性
- ●ドメインB:個人の能力・・・個人の資質/自己管理/ 能力開発・キャリア開発
- ●ドメインC:研究の管理運営・・・専門家としての行動 /研究管理/財務・資金調達・リソース
- ●ドメインD: エンゲージメント、影響とインパクト・・・エンゲージメントとインパクト/コミュニケーションと普及/他の協調

(https://irecin.ist.go.jp/seek/SeekVitaeInformation)



実践的研究能力の可視化と評価(案)[20150828修正、鹿屋WG案]

〈博論計画のプレゼンテーションと質疑応答(40分	> ({		〈実践的研究能力の口述試験(20分)>
【博士論文作成力の評価】	評点		【実践的研究能力の評価 評点
●博士論文作成力の評価(総合①)			●仮説創出型研究能力(総合②)
・ビジュアルプレゼンカ(20分)			•事例記述力
·質疑応答(20分)		\	・説明・解釈力
			・予測・提案力
1		ī	
<事前審査>			●仮説検証型研究能力(総合③)
【実践的研究論文の作成力の評価】	評点		•情報収集力
●実践的研究論文の論文評価(小計①)			·情報分析力
・研究テーマの適切性			・実験等構想力
・文献研究の適切性			・実験等実施力
・研究方法の妥当性			•分析•統計力
・論理の一貫性			•仮説検証力
・研究の有用性・実用性		4 .	
・論文の体裁			●研究倫理(総合④)
			・研究者の責務
【博士論文研究計画書の作成力の評価】	評点		・公正な研究
●博士論文研究計画書の論文評価(小計②)			・社会の中の研究
・研究テーマの適切性			•法令遵守
・文献研究の適切性			
・研究方法の妥当性			
・論理の一貫性・研究の独自性・独創性			
		11	

<博士論文作成能力のための事前審査>

・論文計画書の体裁

■実践的研究論文の作成力の評価観点(案) k準の判定 評点 1.研究テーマの適切性 2.文献研究の適切性 3.研究方法の妥当性 4.論理の一貫性 5.研究の有用性・実用性 6.論文の体裁 評点(小計①)								
水準の判定	評点		2. 文献研究の適切性	3. 研究方法の妥当性	4. 論理の一貫性	5. 研究の有用性・実用性		評点(小計①)
		社会的意義が適切に示されてい	究を適切に整理・概観している。 ②自らの研究に対して先行研究 を適切に関連づけ、活用してい	①研究目的等を達成するために 妥当な研究方法が選択されている。 ②選択した研究方法の妥当性や その方法を通切に示している。 ②研究を遂行するに当たり、適切 な倫理的配慮が示されている。	展開に整合性、一貫性がある。 ②研究目的や課題に対して、資	研究テーマ、目的・課題設定、研究方法、ないし結論等に有用性 や実用性が認められる.	研究内容を興味深く、分かりやす く、作成要領に従って、伝えてい る。	
期待される 水準を大き く上回る	4	①と②が極めて適切かつ明確 である		①②③が全て極めて適切かつ 明確である		学術的・社会的・実践的に高い 有用性や実用性が明確に認 められる	高いレベルにある	
期待される 水準にある	3	①と②が適切である	①と②が適切である	①②が適切かつ明確で. ③へ の配慮もある	①と②が適切かつ明確である	学術的・社会的・実践的に有 用性や実用性が認められる	適切なレベルにある	
期待される 水準を下回 る	2		①あるいは②のどちらかが担 保されている	①あるいは②が一応担保され ている	①あるいは②のどちらかが担 保されている	学術的・社会的・実践的に何ら かの有用性や実用性が僅か に認められる	適切なレベルを下回る	
期待される 水準を大き 下回る	1	全く担保されていない	全く担保されていない	全く担保されていない	全く担保されていない	学術的・社会的・実践的に何も 有用性や実用性が全く認めら れない。	全く担保されていない	
評点								
コメント								

■博士論文研究計画書の作成力の評価観点(案)

■博士論文研究計画書の作成力の評価観点(条)									
水準の判定	評点	1. 研究テーマの適切性	2. 文献研究の適切性	3. 研究方法の妥当性	4. 論理の一貫性	5. 研究の独自性・独創性	6. 論文計画書の体裁	評点(小計②)	プレゼンテーション&質疑応答
		①研究テーマ設定の背景・問題, 実践現場への有用性や学術的・ 社会の意義が適切に示されている。 ②研究目的や課題が適切で、明 確である。	究を適切に整理・概観している。 ②自らの研究に対して先行研究	①研究目的等を達成するために 妥当な研究方法が選択されている。 ②選択した研究方法の妥当性や その方法を適切に示している。 ③研究を遂行するに当たり、適切 な倫理的配慮が示されている。	結論が述べられている.	研究テーマ、目的・課題設定、研究方法、ないし結論等に独自性 や独創性が認められる.	研究内容を興味深く、分かりやすく、作成要領に従って、伝えている。		①研究発表で、研究内容を興味深く、分かりやすく伝えている。 ②発表 資料で、研究内容を興味深く、分かりや すく伝えている。 (金で、貢削に対して適切かつ分かりやすく(回答している)
期待される 水準を大き く上回る	4	①と②が極めて適切かつ明確 である	①と②が極めて適切かつ明確 である	①②③が全て極めて適切かつ 明確である	①と②が適切かつ明確である	学術的・社会的・実践的に高い 独自性や独創性が明確に認 められる	高いレベルにある		①②③が全て高いレベルにある
期待される 水準にある	3	①と②が適切である	①と②が適切である	①②が適切かつ明確で. ③への配慮もある	①と②が適切かつ明確である	学術的・社会的・実践的に独 自性や独創性が認められる	適切なレベルにある		①②③が適切なレベルにある
期待される 水準を下回 る	2	①あるいは②のどちらかが担 保されている	①あるいは②のどちらかが担 保されている	①あるいは②が一応担保され ている	①あるいは②のどちらかが担 保されている	学術的・社会的・実践的に何ら かの独自性や独創性が僅か に認められる	適切なレベルを下回る		①②③が一応担保されている
期待される 水準を大き 下回る	1	全く担保されていない	全く担保されていない	全く担保されていない	全く担保されていない	学術的・社会的・実践的に何も 独自性や独創性が認められない。			全く担保されていない
評点									
コメント									

7

実践的研究能力評価表(案)

■仮説創出型研究力(提出された博士論文研究計画書及び実践的研究論文を手がかりに口述試験で評価)

- MUDOUD 1 - 111 2011								(LOTO, O, LOPPIL)
水準の判定	期待される水準を 大きく上回る	期待される水準に ある	期待される水準を 下回る	期待される水準を 大き下回る	質問例	Pre-QE 評価	QE 評価	質の向上度
観点/評点	4	3	2	1		2014/8/1	2014/10/1	
事例記述力 説明:解釈力 未来への予測・提案力	回って、事実、感情、意見等を分かり 情、意見等を分かり やすく表現、説明で きる、また、事象の 解釈が多面的にか つ独創的な視点で	を分 説明できる。 現、 事象の解釈があ ・ 面側のでは、 を面側を視点で分 ・ でも、 ・ できる。 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ できる。 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ できる。 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ できる。 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ できる。 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ でも、 ・ できる。 ・ でも、 ・	や提案ができない.	を分かりやすく表現,説明が全くできない。また、事象の解釈が独りよががりまがい。 解釈が強りよががいるがで、多面的に分析・ で、多面が全く出来な		2	2	④大きく改善、あるい は高い質を維持している ③改善、改善している ②質を維持している ①質を維持していると は言えない

■仮説検証型研究力(提出された博士論文研究計画書及び実践的研究論文を手がかりに口述試験で評価)

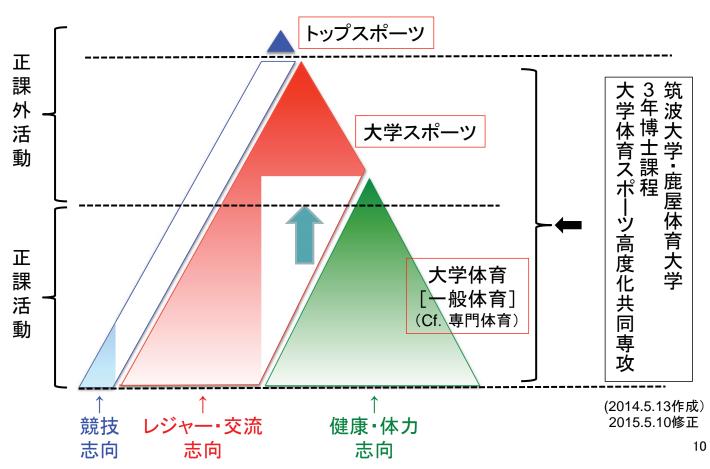
水準の判定	期待される水準を 大きく上回る	期待される水準に ある	期待される水準を 下回る	期待される水準を 大き下回る	質問例	Pre-QE 評価	QE 評価	質の向上度
観点/評点	4	3	2	1		2014/8/1	2014/10/1	
情報収集力 情報収集力 情報分析構想力 実験等の実施可能性 統計・分析力 仮説検証力	回って、情報の収集 や分析が出来ている。実験等の構想が 独創的で、実施可能 性が明確に見通せ る。さらに統計・分析	が出来ている。実験に 等の案され。適切に が実され。通いを をが見るが に統計・分析し、仮説 る知識の 筋道が見通 せる。 関い を は の に が 見 る に が 見 る に り る に り る に り る に り る に り る に り る に り る に り る に り る に り る し る し る し る し る し る し る し る り る し る り と り る り と る り と る り と り と る り と る と る	計・分析に関する知識も不十分で, 仮説 検証の筋道が不透	が全く出来ない、実 験等の構想が全く出来ない。 実施可能性も 全く見えない、さらに 統計・分析に関する 知識も貧弱で、仮説		3	4	④ 大きく改善 あるには高い質を維持している ③ 改善、改善してい ② 質を維持している ① 質を維持している は言えない

■研究倫理(口述試験で評価)

水準の判定	期待される水準を 大きく上回る	期待される水準に ある	期待される水準を 下回る	期待される水準を 大き下回る	質問例	Pre-QE 評価	QE 評価	質の向上度
観点/評点	4	3	2	1		2014/8/1	2014/10/1	
研究者の責務 公正な研究	回って、研究者の責務、公正な研究及び 法令遵守について の理解している。さ らに、当該専門分野	正な研究及び法令理解している。 主等についる。 主等についての理解している。 主等に対象研究の社会に対象研究の社会的意義等についても適切に説明できる。	研究者の支務: 法母理 本の支務: 法令理 会理 会理 会に、当 会 会に、当 会野 会に、当 会野 会に、 会野 会いであたりに のいであたり のい	正な研究及び法令 遵守についての理 解が全くない。さら に、当該専門分野に おける研究の社会 的意義等についても		2	3	④大きく改善。あるいは高い質を維持している③改善。改善している②質を維持している①質を維持しているとは言えない

(2015/8/28修正)

大学における体育・スポーツと大学院での指導者養成の関係



資料3-5

指導場面に応じて作成すべき資料の概要

①一般体育	②専門体育	③スポーツ指導
一般体育全体の方向性 (DPやCP,教育目標のようなもの)	専門体育全体の方向性 (DPやCP, 教育目標のようなもの)	指導指針や運営体制の 明確化(※1)
担当授業のシラバス作成	担当授業のシラバス作成	3ヶ月~1年のトレーニン グ・指導計画の立案
授業案(レッスンプラン)の作成	授業案(レッスンプラン)の作成	指導案の作成 (レッスン形式のもの)
1コマ授業状況 (ビデオ映像)	1コマ授業状況 (ビデオ映像)	1コマ指導状況 (ビデオ映像)
受講学生からの授業評価点※	受講学生からの授業評価点※	受講学生からの指導評価点※

11

指導方法に関する知識 基礎的な教授行動評価基準20項目

番号	評価観点	評価 の 段階	評 価 規 準	評価方法
	415 198 40	3	挨拶と同時に健康観察、安全管理に気を配っている。学習の良い雰囲気が作られている。	
1	指導の 始まり	2	挨拶が適切に行われている。	指導のはじめのI場面で確認する。
	127.1	1	挨拶が適切に行われていない。	
	学習課題の	3	適切な隊形をとり、前時とのつながりなど、系統的な学習を見通した本時の目標、活動内容を明確にかつ簡潔に伝えている。	1回目と説明のあったそれぞれの
2	子宮味翅の説明	2	適切に学習課題は説明している。	I場面及び 説明のあったA、A2場面
	20077	1	学習課題を説明していない。あるいはうまく伝えていない。	で確認する。
	## TO T 10T to	3	適切な隊形で、学習の手順(場所、活動の順番など)を十分に伝えている。活動 の終わりまで理解させている。	指導のまとめのI場面を除く
3	学習手順の 説明	2	適切に学習手順は説明している。	それぞれのI場面及び説明のあった
	20077	1	学習手順を説明していない。あるいはうまく伝えていない。	A, A2場面で確認する。
	TO AT AN A	3	参加者の表情・態度などから理解度を読み取り、全体や個人に対応した質問などを用いて十分に確認を行っている。	## a + 1 # a # 2 + 1 # A # 2 + 1 # A # 2 + 1
4	理解度のチェック	2	全体に質問を投げかけ、一応の確認している。『わかりますか?」など。	指導のまとめのI場面を除くそれぞれのI場 面で 確認する。
	/=//	1	確認を行っていない。	PRE US / US
		3	視覚的にわかりやすく、学習活動に役立つ板書・掲示物など学習資料が使用されている。	
(5)	板書·掲示物 学習資料「+」	2	板書/掲示物などの学習資料が用意され、使用している。	使用されたそれぞれのI場面で 確認する。
	THRATTI	1	用意していない。あるいは活用できていない。	NEEDS 7 Vo
	デモンスト	3	見やすい隊形を指示し、場面や実態にあった、教師、あるいは参加者によるデモン ストレーションをうまく行っている。	
6	レーションの	2	デモンストレーションは適切に行っている。	行われたそれぞれのI 場面及び A2場面で確認する。
	実施「+」	1	うまく行えていない。	712-90 MI CHERO 7 US
	組織化	3	学習の効率、効果性を意図したグルーピングをスムーズに行っている。	
7	(グルーピング)の	2	グルーピングをスムーズに行っている。	行われたそれぞれのI 場面及び A2場面で確認する。
	実施「+」	1	グルーピングをスムーズに行えていない。指示が適切でない。	/12-90 MAI C HEL BID / O/O
		3	前の場面や次の活動とのつながりを意識した活動の振り返りを適切に行っている。	
8	反省 (まとめ)	2	適切な活動の振り返りをしている。	行われたそれぞれのI場面と指導の まとめのI場面で確認する。
	(0.20)	1	まとめを行わない。あるいはまとめが適切ではない。	OCCUPATION OF CHERDY OF
		3	説明が聞きやすい見やすい集合場所や隊形を指示できている。学習活動のつ ながりを意識した集合場所や隊形が指示できている。	
9	活動場所活動隊形	2	集合場所や隊形を指示できている。	指示のあったI場面及 びA2場面、 M場面で 確認する。
	活 期限形 1 無計画的、あるいは適切な指示がない。		無計画的、あるいは適切な指示がない。	111-99 LDL C 18E.DC 7 '60's
		3	移動場面がほとんどない。活動のつながりを意識し、勢い良く、スムーズに移動している。	
10	移動	2	特に問題なく、おおむねスムーズに移動している。	それぞれのM場面で確認する。
		1	指示が不徹底で、スムーズに移動していない。	

基礎的な教授行動評価基準20項目

番号	評価観点	評価 の 段階	評 価 規 準	評価方法
		3	適切な対応により、不必要な待機場面がない。あるいは最低限の待機場面にとどめている。	
Œ	待機	2	不必要な待機場面が少ない。	それぞれのM場面で確認する。
		1	準備が不足し、不必要な待機場面が多い。	
		3	学習の効率や、活動に有効な施設や用具の配置を考えた準備や片付けがされている。	
12)	施設・用具の 準備、片付け	2	特に問題なく施設・用具の準備や片付けがされている。	それぞれのM場面で確認する。
	+ MEX 71 1317	1	施設・用具の準備、片付けが不十分である。	
		3	話し合いの場面、内容が計画的に設けられている。教師が計画的に関わっている。	A場面が設定されている場合の
3)	話し合い「+」	2	話し合いの場面が設けられている。	それぞれのA 場面で確認する。
		1	話し合いの場面がない。あるいは話し合いの内容が不明瞭である。	(設定されていな い場合は評価しない)
		3	学習活動に効果的な 学習カード 資料が用意さている。十分に活用している。	A 場面が設定されている場合の
14)	学習カード ・資料の 活用「+」	2	学習カード・資料は用意され、活用している。	それぞれのA2場面で確認する。
	/nm: TJ	1	用意されていない。あるいは活用されていない。	(設定されていな い場合は評価しない)
	安全管理	3	安全管理が十分に考えられている。状況に応じた活動内容の修正をしている。	
15)		2	安全に配慮している。	それぞれのA2場面で確認する。
		1	危険を放置している。安全への配慮に欠けている。	
		3	全体を把握できる巡視、観察ができている。	
16	モニタリング (観察、巡視)	2	巡視が行われている。	それぞれのA 場面及びA2場面で 確認する。
	(現場、皿玩/	1	一力所にとどまりすぎ、全体を見ることができていない。	NESC 9 'O'
		3	学習の目標にあった多様な発問をしている。発問が具体的でわかりやすい。	
D	発問の活用「+」	2	活動の目的にあった発問をしている。	行われたそれぞれのI場面及び A、A2場面で確認する。
		1	発問が不明確である。	A. Az-milli Chello y Vo.
		3	肯定的なフィードバックの価値を理解し、相手に伝わるよう、積極的なフィード バックが行われている。	
18)	肯定的な相互作用 の活用	2	ある程度のフィードバックは行っている。	それぞれのA 場面、A2場面及び 見られたI 場面で確認する。
	V/6/11	1	まったく行っていない。あるいは、積極的に行えていない。	プレンイリス 200回 CVERD 9 で。
		3	参加者の技能に応じた、正しい知識による具体的手がかりを伝えている。次の活動につながる手がかりを伝えている。	
19)	技能習得の 手がかり	2	手がかりを具体的に伝えている。	それぞれのA 場面、A2場面及び 見られたI 場面で確認する。
	T.N.N9	1	手がかりが出せない。あるいは、適切でない助言を与えている。	元 つ1いに 物田 (単語) が。
		3	すべての参加者に学習課題や手順が理解されており、活発な学習活動が見られる。また、不適切な場合は適切に修正している。	
20	参加者の行動に 対する対応			それぞれのA場面及びA2場面で 確認する。
	טוניגטי ליניג	1	学習課題や手順が十分に理解されず、参加者の行動が一定していない。	HEBO 7 'O'o

博士論文研究能力審査(QE)実施要項

I. 審査全体の概要

1. 目的

本共同専攻では、大学体育スポーツ現場の教育指導と研究の循環を効果的に行える、学術的職業人としての体育教員(以後、高度大学体育スポーツ指導者)を養成することを目的としている。そのために、従来の博士論文作成重視の教育課程でなく、「実践的教育能力」、「実践的研究能力」、「高度指導者教養」、「博士論文研究能力」を育成するコースワーク重視の教育課程を編成している。そして、これらの能力が育成されているかを2年次後期以降に審査し、博士論文の作成へ繋げることとしている。

従って、2年次後期以降に実施される博士論文研究能力審査(QE: Qualifying Examination)は,博士論文の提出に向け、高度大学体育指導者として求められる「実践的研究能力」及び「実践的教育力」等の到達度を審査することが目的となる.

2. 実施時期

平成28年12月頃に実施予定

3. 実施場所

学生の主幹大学(筑波大学又は鹿屋体育大学)

4. 受験資格

以下の要件を満たし、指導教員が受験を認めた者のみが学位審査委員会(仮称)に QE 受験を申請できる.

- ①実践的研究論文1編投稿し、投稿受理されていること、※1
- ②必修4単位を含む8単位を取得済であること.
- ※1 本専攻における実践的研究論文とは、大学体育スポーツに関連する査読付の研究論文とする. 例えば「大学体育学」、「大学体育研究」、「コーチング学研究」、「スポーツパフォーマンス研究」等に投稿される実践的研究論文を想定し、入学後に投稿・審査開始された論文を対象とする. なお、QE の申請は、QE 実施の1週間前までに申請することとする. その際に対象論文の投稿・審査開始の証明書を提出する.

5. 実施課題と形態と時間

QEでは、「実践的研究能力」と「実践的教育能力」をそれぞれ審査する.

(1)「実践的研究能力」の審査(60分)

以下の事項について実施する.

- ①博士論文研究計画書及び投稿中の実践的研究論文の事前提出書類の評価
- ②博士論文研究計画書のプレゼンテーション(20分)と質疑応答(20分)
- ③口述試験(20分)
- (2)「実践的教育能力」の審査(60分)
 - 以下の事項について実施する.
 - ①教育能力に関する口述試験(40分)
 - ②学体育スポーツに関する口述試験(20分)

6. 審查員

主指導教員1名,副指導教員2または3名 (筑波大学, 鹿屋体育大学どちらかの教員が少なくとも1名は加わる.)

7. 審查方法

実践的教育能力と実践的研究能力の両方の審査に合格した場合, QE の合格とする. なお, 審査の合格者には, 「博士論文課題演習Ⅱ」の単位を与える.

Ⅱ. 実践的研究能力の審査

1. 目的

本専攻では、実践的研究能力を主に「仮説創出型研究力」と「仮説検証型研究力」で構成されるものとして捉え、さらに「研究倫理」も合わせて養成し、この点について可視化し、評価する.

- (1) 仮説創出型研究力: 事例記述, 説明・解釈, 未来への予測・提案する研究能力とする.
- (2) 仮説検証型研究力:情報を収集・分析,実験等を構想し,実施,統計・分析,仮説検証できる研究能力とする.
 - (3) 研究倫理:「科学の健全な発展のために-誠実な科学者の心得-」(学振2015を参照)とする.

2. 審査の概要

実践的研究能力を示す資料(博士論文研究計画書※2及び投稿中の実践的研究論文)及び口述試験を通じて、各項目のルーブリックを作成して可視化する.

なお、上記(1)、(2)、(3)を評価する基準は独自に作成し、通常の研究力の基礎となる基礎的・一般的研究力については授業を通じて Vitae RDF を用いて適宜自己評価させ、確認する.

作成されたルーブリックは、QE の実施前に、外部評価委員会(あるいは外部有識者)へ呈示し、その妥当性についての審議を願う.

※2 申請書類として履修要項内に「博士論文作成計画書」という A4 で 1 枚ものの書類があるが、それとは異なるものとする.

3. 実践的研究能力の審査方法

- (1) 実施時期:第2学年秋学期(後期)
- (2) 実施場所: 主幹大学(筑波大学又は鹿屋体育大学)
- (3) 実施形態と時間

以下の事項について実施する.

- ①博士論文研究計画書及び投稿中の実践的研究論文による書類評価(審査会前に提出・評価)
- ②博士論文研究計画書のプレゼンテーション(20分)と質疑応答(20分)
- ③実践的研究能力に関わる口述試験(20分)
- (4)評価者:主指導教員1名,副指導教員2または3名(筑波,鹿屋どちらかの教員が少なくとも1名は加わる.)

(5) 評価方法

- ①上記(3)の評価事項は、「実践的研究能力の可視化と評価」シートを参照し、4 段階の評点(4:期待される水準を大きく上回る、3:期待される水準にある、2:期待される水準を下回る、1:期待される水準を大きく下回る)で行う.
- ②予め博士論文研究計画書及び投稿中の実践的研究論文を提出させ、事前に評点する.
- ③前述の論文評価も考慮に入れ、博士論文研究計画書のプレゼンテーション・質疑応答を手がかりに「博士論文の作成能力」を評価する.
- ④実践的研究能力、研究倫理について口述試験し、ルーブリックに基づいて評点する。
- ⑤「実践的研究能力の可視化と評価」シートにおける①~④の4項目で、2以下が2項目、1が一つでもある場合は、「最終的総合評価」の評点で2を付けるものとする。その場合は不合格とする。
- ⑥評価者の合議で、「最終的総合評価」の評点の平均が3以上(75%)を合格とする。ただし、前述の⑤に該当する場合は不合格とする。

(6) 再試験

不合格となった場合には、当該年度に再度試験を行うことができる.

ただし、総合評点① \sim ④04項目の内、3項目で総合評点が3以上であることが条件となる(それ以外は、次年度以降の履修とする。)

4. その他に検討すべき事項

- (1) \mathbf{QE} は再試可能とする。前年度不合格となった場合は次年度の前期にも \mathbf{QE} を実施し、同年の修了ができるようにする。
- (2) 指導教員・副指導教員の指導により1年次にPre-QE を実施するかどうかは、指導教員の裁量で判断する.
- (3) 入学時には QE の趣旨および実施プロセスを学生に周知し、自己評価書等を適宜提出させる.
- (4) 外部評価委員会による評価は学位を出して最初の3年程度とする.

実践的研究能力の可視化と評価(案)[20150828修正、鹿屋WG案]



Ⅲ. 実践的教育能力の審査

1. 目的

本専攻では、大学体育スポーツにおける実践的教育能力が発揮される場面を以下のように捉え、この点について可視化し、評価する.

- (1) 一般体育:一般学生を対象に、生涯スポーツ等への導きとしての教養体育を教授
- (2) 専門体育: 体育専攻学生(教員養成含)を対象に、実技指導力を高める専門体育を教授
- (3) スポーツ指導:正課外での運動部等でスポーツパフォーマンス向上を指導なお、評価する指導場面は、上記3つのうち評価される学生の状況に応じて選択できるものとする。

2. 審査の概要

前述の実践的教育能力は、能力を示す資料、質疑応答及び口述試験を通じて、ルーブリックを作成して可 視化する.

- 3. 実践的教育能力の審査方法
- (1) 実施時期:第2学年秋学期(後期)
- (2) 実施場所:主幹大学(筑波大学又は鹿屋体育大学)
- (3) 実施形態と時間

以下の事項について実施する.

- ①教育能力に関する口述試験(40分)
- ②大学体育スポーツに関する口述試験(20分)

なお、指導場面に応じて、以下の資料やビデオ映像を用意する. なお、各指導場面で作成すべき資料の詳細は後段を参照のこと.

①一般体育	②専門体育	③スポーツ指導
一般体育全体の方向性 (DPや	専門体育全体の方向性(DPや	指導指針や運営体制の明確化(※
CP, 教育目標のようなもの)	CP, 教育目標のようなもの)	1)
担当授業のシラバス作成	担当授業のシラバス作成	3ヶ月~1年のトレーニング・指
		導計画の立案
授業案(レッスンプラン)作成	授業案(レッスンプラン)作成	指導案作成(レッスン形式のも
		<i>の</i>)
1コマ授業状況(ビデオ映像)	1コマ授業状況(ビデオ映像)	1コマ指導状況(ビデオ映像)
受講学生からの授業評価点※	受講学生からの授業評価点※	受講学生からの指導評価点※

※ 授業・スポーツ指導を撮影したビデオを授業・指導評価システム(資料3)を用いて学生自身が形成的 授業・指導評価を実施し、授業・指導内容を数値化して得られたもの.

(4)評価者:主指導教員1名,副指導教員2または3名(筑波,鹿屋どちらかの教員が少なくとも1名は加わる.)

(5) 評価方法

- ①上記(3)の各口述試験の評価は100点満点とし、4段階を目安に得点化する.80点以上:極めて高い、70~79点:高い、60~69点:一定水準以上、50~59点:必要最低限、49点以下:不十分とする.
- ②教育能力の口述試験は、(3)の③で示した指導場面毎に作成・提出された資料を参考資料とし、ビデオ撮影された授業・スポーツ指導を観察しながら、教授行動評価基準(資料4)を手がかりに教授・指導行動を評価し、大学体育スポーツにおける実践的教育能力が備わっているかについての口述による試験を行う(40分)。
- ③大学体育スポーツに関する口述試験では、大学体育スポーツの意義・歴史・効果等に関する幅広い教養、 指導者としての倫理感、マネジメント能力などが備わっているかについて、口述による試験を行う(20分).
- ④実践的教育能力の最終的な評価は、教育能力の口述試験(100点満点)と大学体育スポーツに関する口述試験(100点満点)の得点を合算した総合得点(200満点)で行う.
- ⑤評価者の合議で、総合得点の7割(140点)以上をもって合格とする.(各項目60点以上に限る)
- (6) 再試験

不合格となった場合には、各項目が 50 点以上の場合に限り、できる限り早い段階で年度内に再度審査を 行う.

4. 補足

筑波大学では、1年次春学期に「授業観察・分析法(学群対象)を履修して模擬授業・研究授業の観察し、1年次秋学期に「大学体育授業演習 I」を履修して、実際に模擬授業を行い (Before)、授業内容や教授行動について、指導教員から客観的評価を受ける。それらの評価をもとに授業改善に努め、2年次秋学期に「大学体育授業演習 II」を履修し、再度模擬授業を行い (After)、Before After の映像および形成的定業評価結

果などの資料をもとに、如何に授業改善に努めてきたかをプレゼンテーションし、それらのプレゼンや資料に基づいて口述試験を実施する予定である.

5. 評価のための資料作成の要領

以下の指導場面に応じて、資料を作成することとする.

①一般体育	②専門体育	③スポーツ指導
一般体育全体の方向性 (DPや	専門体育全体の方向性(DPや	指導指針や運営体制の明確化(※
CP, 教育目標のようなもの)	CP, 教育目標のようなもの)	1)
担当授業のシラバス作成	担当授業のシラバス作成	3ヶ月~1年のトレーニング・指
		導計画の立案
授業案(レッスンプラン)作成	授業案(レッスンプラン)作成	指導案作成(レッスン形式のも
		<i>の</i>)
1コマ授業状況(ビデオ映像)	1コマ授業状況(ビデオ映像)	1コマ指導状況(ビデオ映像)
受講学生からの授業評価点※	受講学生からの授業評価点※	受講学生からの指導評価点※

(1) 一般体育・専門体育の場面

- ①大学における一般体育あるいは専門体育の教育方針等に係る資料を作成する.
- ②担当授業を想定したシラバスの作成(資料1),
- ③毎回の授業の指導内容に関するレッスンプランの作成(資料2)
- ④授業のビデオ映像
- ⑤授業の様子をビデオ撮影し、授業・指導評価システムを用いて学生自身が形成的授業評価を実施し、授業 内容を数値化された授業評価点(資料3)

(2) スポーツ指導の場面

大学スポーツでは、個人やチームに対する指導力と同時に、運動部活動自体をマネジメントすることが重要になる。中・高等学校における部活指導の手引き等を参考に、大学における運動部活動の指導に関する指導指針や運営体制等についてまとめたものを求める。

- ①指導指針や運営体制の明確化に係る以下の資料を作成する.
 - ・大学における運動部活動の運営方針
 - ・担当する運動部活動の方針や目的、目標
 - ・指導理念や方針指導の基本事項等

入部, 転部, 退部の考え方/新入生へのオリエンテーション計画/部組織や一日の活動モデル/平日 や休日の活動時間や指導の在り方/対外試合等への参加に対する考え方/施設や用具の使用割り当て/事故 防止や安全対策/保護者・地域社会との連携/外部指導者に関する方針の明確化等

- ②1ヶ月~1年のトレーニング・指導計画の立案(形式は自由)
 - なお、全体の中での評価されるレッスン的指導の位置づけを明確にしておく.
- ③指導案 (レッスン形式のもの)

指導内容に関するレッスンプラン(資料2)

- ④指導のビデオ映像(1コマ分)
 - 指導の様子をビデオ撮影する.
- ⑤指導に参画した学生により指導の分析・評価

授業・指導評価システム(資料3)を用いて参加者自身が形成的指導評価を実施し、指導内容を数値化する.

シラバス例

平成27年度 共通科目「体育」シラバス

<u> </u>	
授業科目名	基礎体育ソフトボール(秋)
担当教員名	木内 敦詞
オフィスアワー等(連絡先含む)	木曜日13:30-16:45。重複を避けるため、事前のメール連絡が望ましい。 kiuchi@taiiku.tsukuba.ac.jp
科目番号	2121193
授業形態	実技
標準履修年次	1年次
開設モジュール・曜時限等・教室	秋AB・金3・野球場
単位数	0.5単位
授業概要	新入生の大学生活への適応支援を目的に、「スポーツ活動(ソフトボール)を通じたライフスキルの獲得」と、「日常生活課題を通じた健康な生活習慣の獲得」を目指す。
キーワード	コミュニケーション、チャレンジ、技術、スポーツマンシップ、実践力
教育目標との関連	・豊かな心と社会性の醸成 ・仲間とともに挑戦する力の養成
授業の到達目標	チームワークを高め、仲間とともに課題や目標に挑戦できる。
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:ドリル、簡易ゲーム1 第3回:ドリル、簡易ゲーム2 第4回:ドリル、簡易ゲーム3 第5回:総合練習、スキル測定 第6回:チーム発表、ゲーム1 第7回:チーム練習 第8回:ドリル、ゲーム2 第9回:ドリル、ゲーム3 第10回:順位決定戦 第11回:予備日
履修条件	運動に適したシューズ・ウェア着用
教材・参考文献・配布資料等	大学体育ワークブック(無料配布)
成績評価方法	①技能35% ②知識・理解30% ③態度・意欲35%
授業外における学習方法	ワークブックに用意されている日常生活課題を通じて、より活動的な生活習慣を獲得する。
その他 (学生に望むこと等)	スポーツ活動に内在する「自己開示」「他者協力」「挑戦達成」する場面を大切にしながら、ソフトボールを楽しもう。
	亚龙02年度 然冲上带 化茶片

平成27年度 筑波大学 体育センター

レッスンプラン

拉娄夕	中 业	明. 中阳. 担武	
授業名	担ヨ教貝石	曜・時限・場所	

授業目標

時限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
課題											
0分											
15分											
30分											
0											
45分											
60分											
75.0											
75分											

資料4-7

模擬授業のビデオ撮影



指導案ならびに実施授業に対する期間記録と教師相互作用記録の組織的観察法(高橋 他,2003)による分析データをリンクして保存



授業評価集計結果



資料4-9

指導方法に関する知識 基礎的な教授行動評価基準20項目

番号	評価観点	評価 の 段階	評価規準	評価方法	
1	15.75.0	3	挨拶と同時に健康観察、安全管理に気を配っている。学習の良い雰囲気が作られている。		
	指導の 始まり	2	挨拶が適切に行われている。	指導のはじめのI場面で確認する。	
		1	挨拶が適切に行われていない。		
2	学習課題の 説明	3	適切な隊形をとり、前時とのつながりなど、系統的な学習を見通した本時の目標、活動内容を明確にかつ簡潔に伝えている。	│ 1回目と説明のあったそれぞれの	
		2	適切に学習課題は説明している。	I場面及び説明のあったA、A2場面で確認する。	
		1	学習課題を説明していない。あるいはうまく伝えていない。	で唯認する。	
	W 77 - WT -	3	適切な隊形で、学習の手順(場所、活動の順番など)を十分に伝えている。活動 の終わりまで理解させている。	│ ―指導のまとめの!場面を除く	
3	学習手順の 説明	2	適切に学習手順は説明している。	それぞれのI場面及び説明のあった	
	170 73	1	学習手順を説明していない。あるいはうまく伝えていない。	TA、A2場面で確認する。	
		3	参加者の表情・態度などから理解度を読み取り、全体や個人に対応した質問など を用いて十分に確認を行っている。		
4	理解度の チェック	2	全体に質問を投げかけ、一応の確認している。『わかりますか?」など。	□指導のまとめの!場面を除くそれぞれ □の!場面で確認する。	
	, _ , ,	1	確認を行っていない。	TOTAL CHEMICA TO	
	板書·掲示物 学習資料「+」	3	視覚的にわかりやすく、学習活動に役立つ板書・掲示物など学習資料が使用されている。		
(5)		2	板書/掲示物などの学習資料が用意され、使用している。	使用されたそれぞれのI場面で 確認する。	
		1	用意していない。あるいは活用できていない。	HELIO 7 Go	
	デモンスト レーションの 実施「+」	3	見やすい隊形を指示し、場面や実態にあった、教師、あるいは参加者によるデモン ストレーションをうまく行っている。		
6		2	デモンストレーションは適切に行っている。	□行われたそれぞれのI 場面及び ■A2場面で確認する。	
		1	うまく行えていない。	The same of the sa	
	組織化 (グルーピング)の 実施「+」	3	学習の効率、効果性を意図したグルーピングをスムーズに行っている。		
7		2	グルーピングをスムーズに行っている。	「行われたそれぞれのI 場面及び 」A2場面で確認する。	
		1	グルーピングをスムーズに行えていない。指示が適切でない。	The same of the sa	
	反省 (まとめ)	3	前の場面や次の活動とのつながりを意識した活動の振り返りを適切に行っている。		
8		2	適切な活動の振り返りをしている。	↑行われたそれぞれのI場面と指導のまとめのI場面で確認する。	
		1	まとめを行わない。あるいはまとめが適切ではない。		
	活動場所 活動隊形	3	説明が聞きやすい見やすい集合場所や隊形を指示できている。学習活動のつながりを意識した集合場所や隊形が指示できている。		
9		2	集合場所や隊形を指示できている。	「指示のあったⅠ場面及びA2場面、 」M場面で確認する。	
		1	無計画的、あるいは適切な指示がない。	THE SHE DISTANCE	
110	移動	3	移動場面がほとんどない。活動のつながりを意識し、勢い良く、スムーズに移動 している。		
		2	特に問題なく、おおむねスムーズに移動している。	それぞれのM場面で確認する。	
		1	指示が不徹底で、スムーズに移動していない。		

基礎的な教授行動評価基準20項目

番号	評価観点	評価 の 段階	評 価 規 準	評価方法	
11)	待機	3	適切な対応により、不必要な待機場面がない。あるいは最低限の待機場面にとどめている。	それぞれのM場面で確認する。	
		2	不必要な待機場面が少ない。		
		1	準備が不足し、不必要な待機場面が多い。		
	施設・用具の 準備、片付け	3	学習の効率や、活動に有効な施設や用具の配置を考えた準備や片付けがされている。		
12		2	特に問題なく施設・用具の準備や片付けがされている。	それぞれのM場面で確認する。	
		1	施設・用具の準備、片付けが不十分である。		
			3	話し合いの場面、内容が計画的に設けられている。教師が計画的に関わっている。	
13	話し合い「+」	2	話し合いの場面が設けられている。	ーーー A場面が設定されている場合の それぞれのA場面で確認する。 (設定されていない場合は評価しない)	
		1	話し合いの場面がない。あるいは話し合いの内容が不明瞭である。		
		3	学習活動に効果的な資料が用意さている。十分に活用している。	──A 場面が設定されている場合の	
14)	資料の活用「+」	2	資料は用意され、活用している。	それぞれのA2場面で確認する。	
		1	用意されていない。あるいは活用されていない。	(設定されていない場合は評価しない)	
	安全管理		3	安全管理が十分に考えられている。状況に応じた活動内容の修正をしている。	
15)		2	安全に配慮している。	 それぞれのA2場面で確認する。	
		1	危険を放置している。安全への配慮に欠けている。		
	モニタリング (観察、巡視)	3	全体を把握できる巡視、観察ができている。		
16		2	巡視が行われている。	── それぞれのA場面及びA2場面で 確認する。	
		1	一力所にとどまりすぎ、全体を見ることができていない。	HE DIO 7 O O	
	発問の活用「+」	3	学習の目標にあった多様な発問をしている。発問が具体的でわかりやすい。		
17)		2	活動の目的にあった発問をしている。	── 行われたそれぞれのI場面及び ── A、A2場面で確認する。	
		1	発問が不明確である。		
	肯定的な相互作用 の活用	3	肯定的なフィードバックの価値を理解し、相手に伝わるよう、積極的なフィード バックが行われている。		
18		2	ある程度のフィードバックは行っている。	──それぞれのA場面、A2場面及び ──見られたI場面で確認する。	
		1	まったく行っていない。あるいは、積極的に行えていない。	一 ラビックロバニー 日日 これにはり ひ。	
19	技能習得の 手がかり	3	参加者の技能に応じた、正しい知識による具体的手がかりを伝えている。次の活 動につながる手がかりを伝えている。		
		2	手がかりを具体的に伝えている。	────────────────────────────────────	
		1	手がかりが出せない。あるいは、適切でない助言を与えている。	一 フロ・フィックにでの日本 く HE DIG ファン・	
	参加者の行動に 対する対応	3	すべての参加者に学習課題や手順が理解されており、活発な学習活動が見られる。また、不適切な場合は適切に修正している。		
20		2	おおむねの参加者に学習課題や手順が理解され、想定した活動が見られる。		
		1	学習課題や手順が十分に理解されず、参加者の行動が一定していない。	HEDIO Y OO	

平成 27 年度 筑波大学・鹿屋体育大学 大学体育スポーツ高度化共同専攻 外部評価委員会報告書

発行:平成28年3月

筑波大学・鹿屋体育大学 大学体育スポーツ高度化共同専攻